Canon

キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区三田3-12-15 東急三田ビル

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

製品名	お問い合わせ
PowerShot G2	**キヤノン販売お客様相談センター（全国共通番号）　0570−01−9000**

受付時間: 平日 9:00〜12:00　13:00〜18:00　19:00〜21:00
土･日･祝日 10:00〜12:00　13:00〜17:00
（1月1日〜1月3日を除く）

お電話がつながりましたら音声ガイダンスに従ってデジタルカメラの該当番号〈71〉をお話しください。音声認識後、商品担当者におつなぎします。

全国64ヶ所にある最寄りのアクセスポイントまでの通話料金でご利用になれます。なお、携帯電話･PHSをご使用の方は 043−211−9556 をご利用ください。

※ 音声応答システム･受付時間･該当番号は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
※ 電話の回線状態等によっては、正しく音声認識できない場合があります。その場合でもオペレーターにおつなぎいたしますので、そのまま電話を切らずにお待ちください。
※ 消耗品はお買い上げいただいた販売店、お近くのキヤノン製品取り扱い店およびキヤノン販売（株）販売窓口にてご購入ください。なお、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。

修理サービスご相談窓口

同梱の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社
http://www.canon.co.jp/Imaging/

キヤノン販売株式会社　デジタルカメラ製品情報
http://www.canon-sales.co.jp/camera/digital/

キヤノン販売株式会社　サービス&サポート
http://www.canon-sales.co.jp/e-support/index-j.html

Canon Image Gateway
http://www.imagegateway.net/

CDI-J048-010　　0102Ni8

Canon キヤノンデジタルカメラ PowerShot G2 ユーザーガイド

Canon

CDI-J048

キヤノンデジタルカメラ

PowerShot G2
DIGITAL CAMERA

ユーザーガイド



CANON iMAGE GATEWAY

操作の流れと参照するガイド

本書
- カメラで撮影する
- ソフトウェアをインストールする
- カメラとコンピューターを接続する
- 画像をコンピューターに取り込む

ソフトウェアクイックガイド

- まず最初に表紙裏面の「ご注意」をお読みください。
- 各プリンターに同梱されているプリンターユーザーガイドもお読みください。

Exif Print　DPOF　DIRECT PRINT　BUBBLE JET DIRECT

ご注意

本体温度について

このカメラは、電源を入れたあと長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。

カメラをお使いになる前に、必ず本書の「ご使用の前に(p.4)」をお読みください。

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

本文中のマークについて

- 操作に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。
- 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。
- カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーガイド(本書)やソフトウェアクイックガイドに従って正しい取り扱いをしてください。

目次

ご使用の前に

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。

万一、このカメラやCFカードなどの不具合により、画像の記録やコンピューターへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障･不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「修理サービスご相談窓口」にご相談ください。

安全上のご注意

- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
- 本文中の「本機器」とは、カメラおよびコンパクトパワーアダプターを指します。

⚠ **警告**	この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
⚠ **注意**	この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

⚠ 警　告

- カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- 本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。お子様が誤って本機器やバッテリーを破損すると危険です。また、誤ってストラップ を首に巻き付けると、窒息することがあります。
- カメラまたはワイヤレスコントローラーに使用しているコイン型リチウム電池は、特に幼児の手の届かないところに置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだ場合には、ただちに医師と相談してください。
- 本機器を分解、改造しないでください。高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
- 落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- 煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- 本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- 本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。カメラには防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。
  万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、バッテリーを外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。火災の原因となります。

- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源コードに重いものを載せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。漏電して、火災、感電の原因になります。

- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などでコードが傷つき、火災、感電の原因となります。

- 本機器専用以外の電源は使用しないでください。発熱、変形して、火災、感電の原因になります。

- バッテリーを火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。また、水の中に入れたりしないでください。バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがの原因になります。

- バッテリーを分解、改造したり、加熱しないでください。破裂により、けがの原因となります。万一、バッテリーの電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。

- バッテリーを落とすなどして強い衝撃を与えないでください。外装が破損した場合、バッテリーの液漏れにより、けがの原因になります。

- キーホルダーなどの金属類でバッテリーの「＋」と「－」の端子を接触（ショート）させないでください。発熱し、やけど、けがの原因となります。持ち運びや保存の際は、必ず付属の専用のバッテリーカバーを付けてください。

- バッテリーを廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。

- 指定されたバッテリーを使用してください。それ以外のものを使用すると、バッテリーの破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。

- コンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。

- 付属のコンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。他のバッテリーや製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。

- 別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズ、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。また、太陽などの強い光源を絶対に覗かないでください。失明する恐れがあります。

⚠ 注 意

- 直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となったり、機器外装が熱により変形することがあります。また、コンパクトパワーアダプターで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電、故障の原因になることがあります。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛かったり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。けがや本体の故障の原因となることがあります。
- ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因になることがあります。

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊をふせぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

■結露をふせぐために

カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露 (水滴) が発生することがあります。

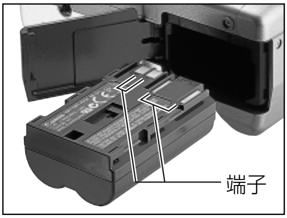
カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れ、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

■結露が発生したときは

故障の原因になりますので、カメラをお使いにならないでください。

CFカード、バッテリー、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

クイックスタート



1 バッテリーを入れる ➔p.18

バッテリーカバー開放スイッチをスライドしてバッテリーカバーを開き、バッテリーを入れます。



2 バッテリーを充電する ➔p.16

メインダイヤルがOFF になっていることを確認し、バッテリーを充電します。ファインダー横の橙色のインジケーターが点滅から点灯に変わったら充電（約90%）完了です。

充電が完了したら、カメラからコンパクトパワーアダプターのDCプラグを抜きます。

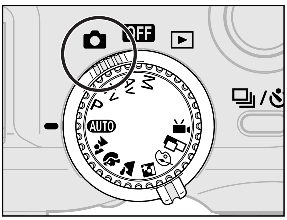


3 CFカードを入れる ➔p.24

ＣＦカードスロットカバーを開き、ＣＦカードを差し込みます。

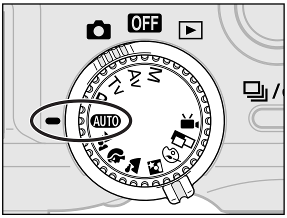


4 レンズキャップを外す

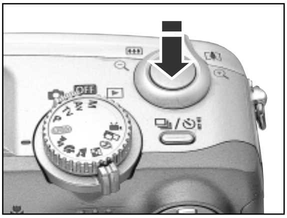


5 電源を入れる ➔p.29

液晶モニターを開き、メインダイヤル（下側）を📷（撮影）に合わせます。

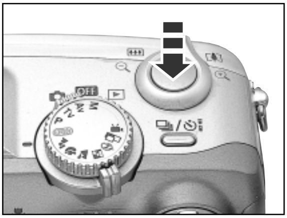


6 モードダイヤル(上側)を AUTO にする
➔p.41



7 構図を決めて、ピントを合わせる ➔p.36

被写体にカメラを向け、シャッターボタンを軽く押します。撮影準備が完了すると、電子音が2 回鳴ります。



8 撮影する ➔p.36

さらにシャッターボタンを押します。撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。



9 撮影した画像を見る ➔p. 43

撮影した画像は、液晶モニターに約2 秒表示されます。シャッターボタンを押し続けるか、画像が表示されている間に**SET** ボタンを押すと、シャッターボタンを離しても撮影画像を表示し続けます。

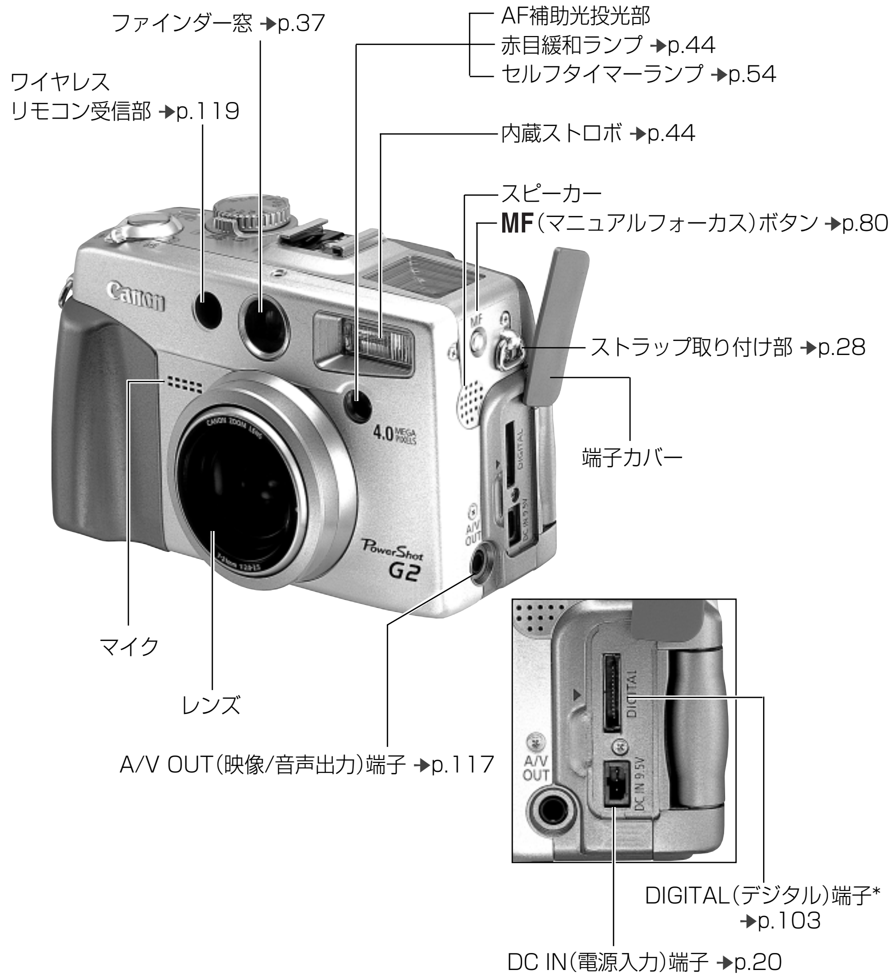
表示画像をすぐに消去する

1. 画像の表示中に🗑ボタンを押す
2. [消去]が選択されていることを確認し、**SET**ボタンを押す



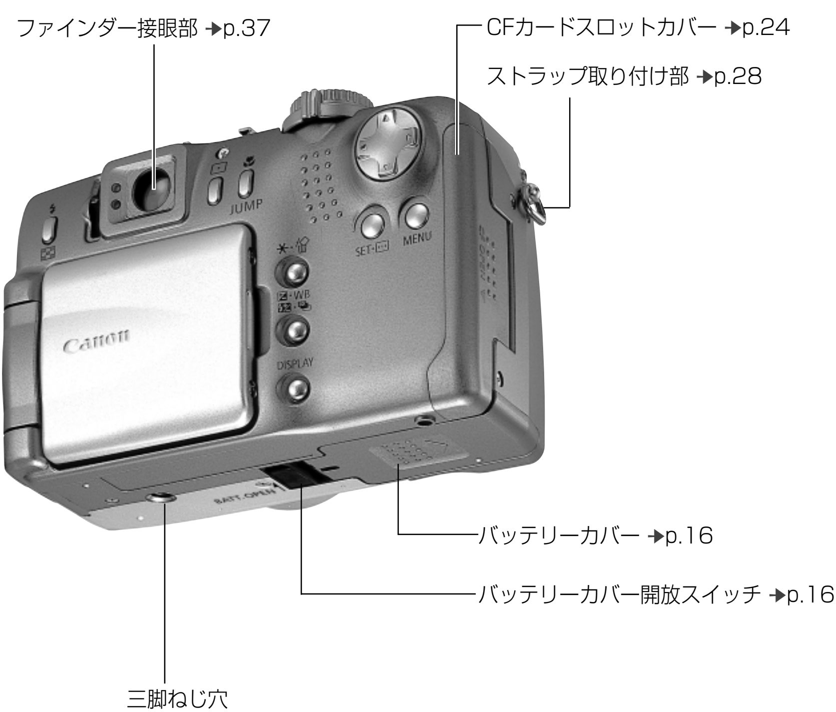
各部の名称

前面

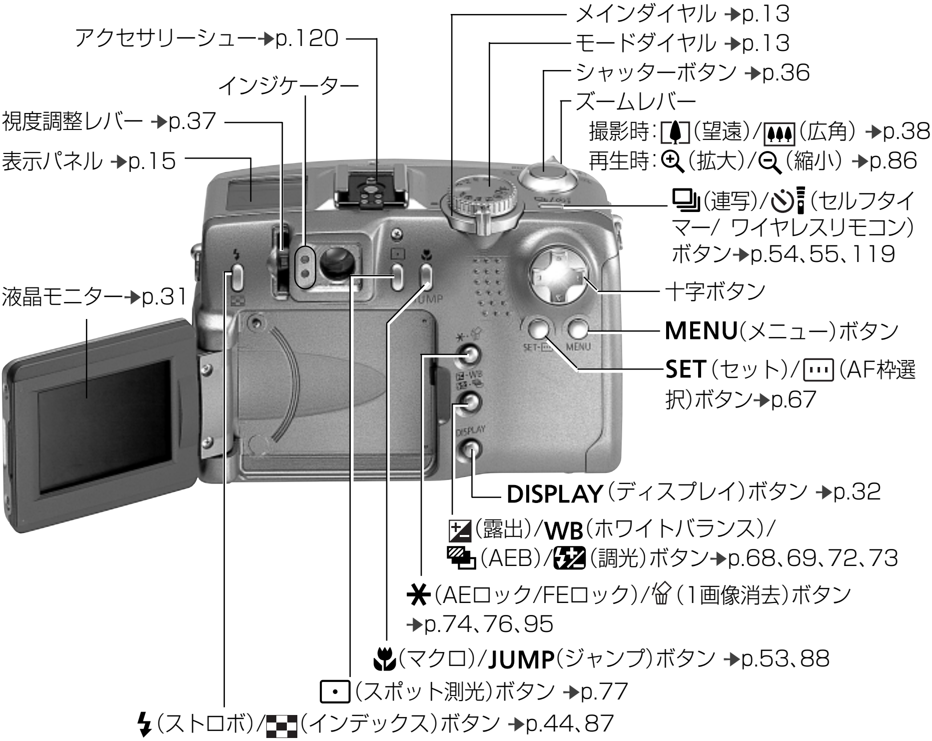


＊ コンピューターと接続する場合は、同梱のＵＳＢケーブルを接続し、カードフォトプリンター CP-10（別売）と接続する場合は、プリンターに同梱のダイレクトインターフェースケーブル DIF-200を接続します。

背面/底面


ファインダー接眼部 ➔p.37
CFカードスロットカバー ➔p.24
ストラップ取り付け部 ➔p.28
バッテリーカバー ➔p.16
バッテリーカバー開放スイッチ ➔p.16
三脚ねじ穴
JUMP
SET
MENU
DISPLAY
WB
Canon
BATT. OPEN

操作部



インジケーター

●インジケーター(上側)

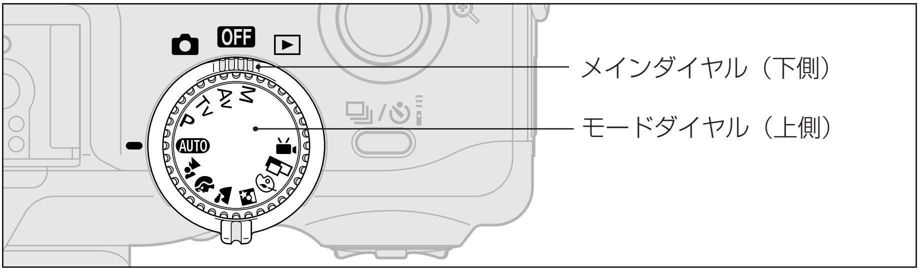
シャッターボタンを押したとき、または以下の動作中にインジケーターが点灯、点滅します。

・緑点灯　：撮影準備完了/バッテリーの充電完了(100%)*
・緑点滅　：CFカードへ記録中/CFカードからの読み出し中/CFカードからの消去中/データ転送中(コンピューター接続時)
・橙点灯　：撮影準備完了(ストロボ発光)/バッテリーの充電完了(約90%)*
・橙点滅　：撮影準備完了(手ブレ警告)/バッテリーの充電中(点滅の間隔は、バッテリーの充電状態により異なります。)*
*コンパクトパワーアダプター接続時のみ表示

●インジケーター(下側)

・黄点灯　：マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影
・黄点滅　：ピントが合いにくいとき(黄点滅でもシャッターは押せますが、フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスでピントを合わせて撮影してください。➔p.80)

メインダイヤル/モードダイヤル



メインダイヤル

メインダイヤルは、撮影と再生を切り換えたり、電源を切るときに使います。

OFF　：OFF ➔p.29

（撮影）　：撮影 ➔p.30

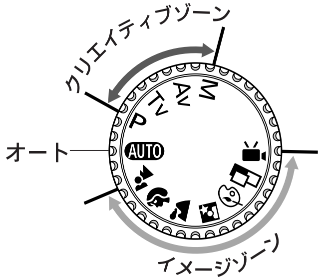
（再生）　：再生

- ·CFカードに記録されている画像を、再生したり消去するモードです。➔p.30
- ·カードフォトプリンター CP-10（別売）に接続すると、撮影した画像をプリントできます。➔p.103
- ·コンピューターと接続すると、撮影した画像の表示や取り込みができます。

＊カードフォトプリンター CP-10（別売）への接続が完了すると、液晶モニターに（アイコン）が表示されます。
＊コンピューターへの接続が完了すると、表示パネルに「PC」と表示されます。

モードダイヤル

撮影モードを選択するときに使います。〈メインダイヤルが（撮影）時〉



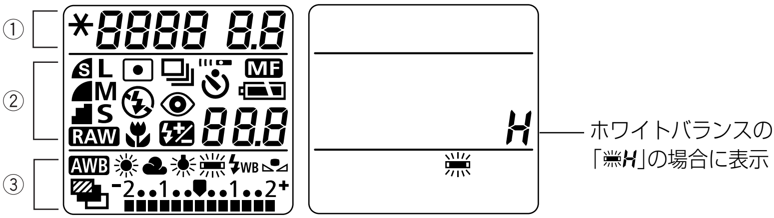
● AUTO：オート →p.41
カメラまかせの撮影ができます。

●イメージゾーン
被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影ができます。
：パンフォーカス →p.46
：ポートレート →p.46
：風景 →p.47
：夜景→p.47
：色効果 →p.48
：スティッチアシスト→p.49
：動画 →p.52

●クリエイティブゾーン
露出や絞りを変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。
P：プログラムAE →p.61
Tv：シャッター速度優先AE →p.62
Av：絞り優先AE →p.64
M：マニュアル露出 →p.66

表示パネル

カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影時間、バッテリー残量などが表示されます。



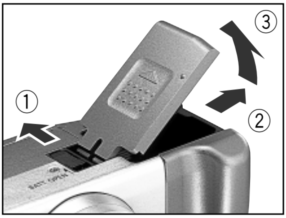
①	✱	AEロック/FEロック	p.74/p.76
	8888	シャッター速度/動画撮影時間	–
	8.8	絞り数値	–
②	S	圧縮率	p.58
	L LM M S	記録画素数	p.58
	RAW	記録形式	p.60
		スポット測光	p.77
		シングル撮影/連続撮影	p.55
		ストロボオン/ストロボオフ	p.44
		赤目緩和	p.44
		マクロモード	p.53
		ストロボ調光補正	p.73
		セルフタイマー/ワイヤレスリモコン	p.54/p.119
	MF	マニュアルフォーカス	p.80
		バッテリー状態	p.18
	88.8	撮影可能画像数/メッセージコード/エラーコード	p.131
③	AWB H WB	ホワイトバランス	p.69
		AEB撮影	p.72
	-2..1..0..1..2+	露出補正レベル/AEBレベル/ストロボ調光補正レベル	p.68/p.72/p.73

- 表示例では、すべての情報を表示しています。実際には、カメラの操作により必要な情報のみ表示されます。

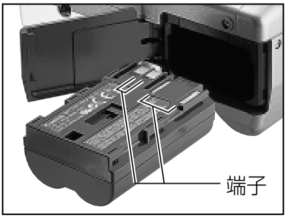
バッテリーを充電する

はじめてお使いになるときや、バッテリー残量低下アイコン（ ）と「Lb 」が点滅したときは、次の方法でバッテリーを充電してください。

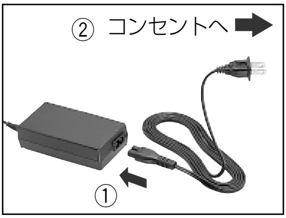
1 メインダイヤルを OFF にする



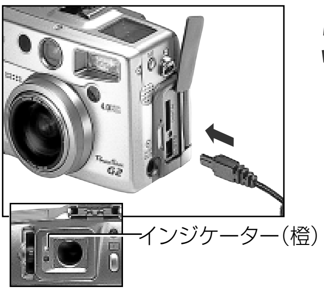
2 バッテリーカバー開放スイッチを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーカバーを開く



3 バッテリーパック BP-511を入れ、バッテリーカバーを閉じる



4 コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む



5 コンパクトパワーアダプターのDCプラグを、カメラのDC IN端子に接続する

- 充電中はファインダー横の橙色のインジケーターが点滅し、約９０％充電（実用充電）されると橙色のインジケーターが点灯します。さらに約2時間充電を続けると、完全に充電され、緑色の点灯に変わります。
- 充電終了後、カメラをお使いにならない場合は、カメラからバッテリーを取り出します。

- 充電中にメインダイヤルをOFF以外にすると、充電が中断され、家庭用電源による使用に変わります。
- このバッテリーは、リチウムイオン電池を使用しておりますので、充電する前に使い切ったり、放電する必要はありません。いつでも充電できます。
- 完全に放電した状態から、約90%充電(実用充電)できるまでの時間は、約80分です。さらに、約2時間で完全に充電されます(当社測定基準による)。5～40℃の範囲で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態によって異なります。
- バッテリーパック BP-512(別売)もお使いになれます。

取り扱いについて

・バッテリー、カメラの ⊕⊖ⒹⒷ の端子は常にきれいにしておいてください。
汚れていると、接触不良の原因となります。充電や使用する前に、ティッシュペーパーなどで乾拭きしてください。

・テーブルクロス、じゅうたん、布団、クッションなどをかけたまま充電しないでください。内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。

・バッテリーパック BP-511、BP-512以外のバッテリーは充電しないでください。本体故障の原因となることがあります。

・バッテリーをカメラに取り付けたままにしておくと、お使いにならなくても微少の電流が流れて過放電になり、寿命短縮の原因になります。
お使いにならないときは、カメラから取り出し、専用カバーを付けて乾燥した室温(30℃以下)で保管してください。再びお使いになるときには、充電してからお使いください。

・充電しておいたバッテリーも、少しずつ自然に放電しています。使用する当日または前日に充電することをおすすめします。

・フル充電状態で長期間(1年ぐらい)保管すると、バッテリーの寿命を縮めたり、性能の低下の原因となることがありますので、カメラで「Lb」が表示されるまで使い切ってから室温(30℃以下)で保管することをおすすめします。また、長期間使用しない場合は、1年に1回程度、フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

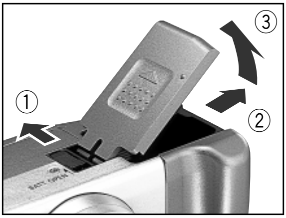
・電源を入れていると、機能を使わなくてもバッテリーは消耗します。こまめに電源を切ることが、使用時間を長くさせるコツです。

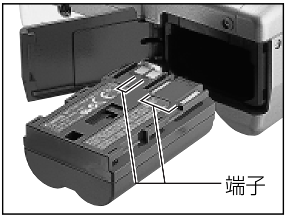
・バッテリーは、0～40℃の範囲で使用できますが、性能を十分に発揮させるためには、10～30℃で使用することをおすすめします。スキー場などの寒冷地では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなります。

・規定の充電をしたにも関わらず、著しく使用できる時間が低下するときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れる

同梱のバッテリーパック BP-511をカメラに入れます。長時間お使いになるときは、家庭用電源をご使用ください。➔p.20





1 メインダイヤルを OFF にする

2 バッテリーカバー開放スイッチを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーカバーを開く

3 バッテリーを写真のように入れる

4 バッテリーカバーを閉じる

- はじめてお使いになるときはバッテリーを充電してください。➔p.16
- 緑色のインジケーターが点滅しているときは、CＦカードへの記録中/ 読み出し中/ 消去中、またはコンピューターへのデータ転送中ですので、カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーを開けないでください。
- カメラを使用しないときは、バッテリーを取り出しておいてください。

バッテリーの状態について

バッテリーの残量によって以下のアイコンが表示されます。ただし、家庭用電源をお使いの場合は表示されません。

（点灯）：バッテリーの容量は十分です。
（点滅）：残量が少なくなっています。
Lb（点滅）：バッテリーを交換または充電してください。

バッテリー性能について

	撮影画像数		再生時間
	液晶モニター表示時	液晶モニター非表示時	
バッテリーパック BP-511/BP-512（フル充電）	約 400 画像	約 1000 画像	約 300 分

＊上記データは、当社測定条件によるもので、撮影状況、撮影モードなどにより異なります。
＊動画データは除きます。
＊使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下したり、バッテリー残量低下アイコンが早めに表示されることがあります。このような場合は、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、バッテリーの性能が回復することがあります。

＜測定条件＞

撮影　：常温（23℃）、20秒間隔でワイド端とテレ端撮影を交互に繰り返し、4回に1回ストロボ使用、8回に1回電源を切/入操作、CFカード使用

再生　：常温（23℃）、1画像あたり5秒間隔で連続再生、CFカード使用

Li-ion

- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- 交換後、不要になった電池、および使用済み製品から取り外した電池のリサイクルに関しては、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、ポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店へのお問い合わせは、以下へお願いします。

・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
・（社）電池工業会　小型二次電池再資源化推進センターおよび充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局

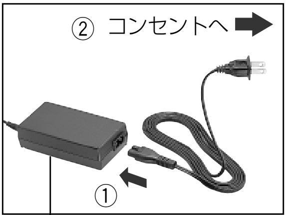
ホームページ　：http://www.baj.or.jp/
電話番号　：03-3434-0261

リサイクル時のご注意

- 電池を分解しないでください。

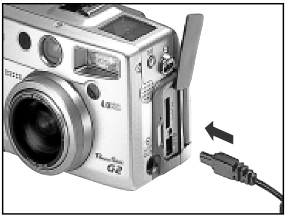
家庭用電源を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、コンピューター、またはカードフォトプリンター CP-10と接続するときは、家庭用電源の利用をおすすめします。



コンパクトパワーアダプター
CA-560

1 コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む



2 端子カバーを開き、コンパクトパワーアダプターのDCプラグをカメラのDC IN端子に接続する

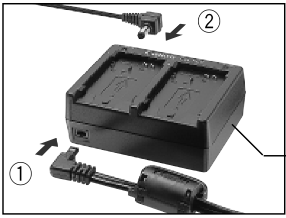
- 使用後は、コンパクトパワーアダプターを取り外してください。

- コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、必ずカメラの電源を切ってから行ってください。
- 家庭用電源の使用中（メインダイヤルが OFF 以外の状態）は、バッテリーの充電はできません。
- コンパクトパワーアダプター CA-560は、バッテリーパック BP-511、BP-512を使用する機器以外には使用しないでください。

チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキットを使う（別売）

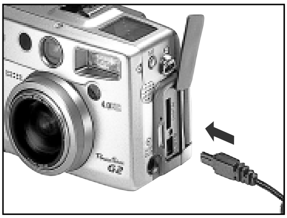
別売のチャージアダプター/カーバッテリーケーブルキット CR-560をお使いになると、自動車のシガーライターソケットから電源を取って、バッテリーを充電したり、カメラを駆動することができます。また、チャージアダプターに付属のコンパクトパワーアダプター CA-560を接続すれば、カメラ本体を使わずに家庭用電源からバッテリーパック BP-511を充電することもできます。バッテリーパック BP-512（別売）もお使いになれます。

カーバッテリーを電源として使う



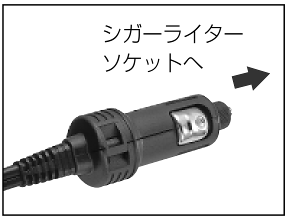
チャージアダプター

1 チャージアダプターにDCケーブル、カーバッテリーケーブルを接続する



2 DCケーブルをカメラのDC IN端子に接続する

- カメラの電源が切れていることを確認してください。



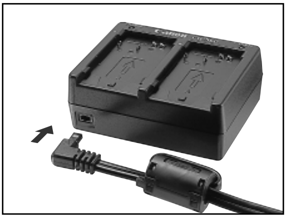
3 自動車のエンジンをかけた状態で、シガープラグを車のシガーライターソケットに接続する

- 取り外すときも、必ず自動車のエンジンをかけたままシガープラグを抜いてください。

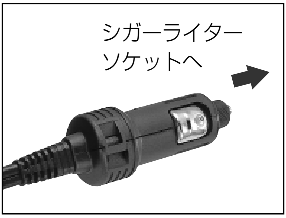
4 カメラの電源を入れ る

- チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキットをお使いになるときは、必ず自動車のエンジンをかけた状態にしてください。エンジンをかけないで使用すると、車種によっては電力を消耗することがあり、バッテリーあがりの原因となります。また、取り外すときも、必ず自動車のエンジンをかけたまま行ってください。

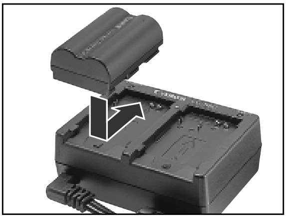
バッテリーを充電する



1 チャージアダプターにカーバッテリーケーブルを接続する



2 自動車のエンジンをかけた状態で、シガープラグを車のシガーライターソケットに接続する



3 バッテリーを取り付ける

- チャージアダプターの▲マークにバッテリーの先端を合わせて、矢印の方向に差し込みます。
- チャージアダプターには、バッテリーパックBP-511を2個取り付けて充電できます。
- バッテリーを1個充電するときは、A、Bどちらに取り付けても充電できます。2 個充電するときは、先に取り付けたバッテリーから充電が始まります。（1 個目の充電が完了すると、2 個目の充電が始まります。）
- シガープラグをシガーライターソケットに接続する前にバッテリーを2個セットした場合、A側に取り付けたバッテリーから充電を始めます。（A 側の充電が完了すると、B 側の充電が始まります。）
- 充電中は赤ランプが点滅し、充電が完了すると点灯します。
- １個のバッテリーを充電するには、約80分かかります。

4 充電が完了したら、バッテリーを取り外す

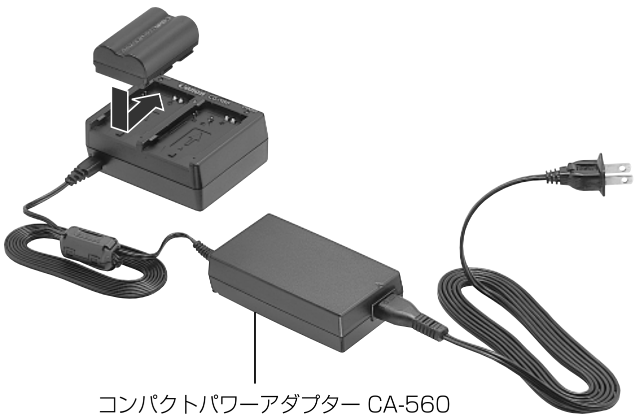
- バッテリーを取り付けたときと逆方向にずらして取り外します。

5 自動車のエンジンをかけたまま、シガープラグをシガーライターソケットから抜く

- エンジンを止めるときは、充電を中止し、シガープラグをシガーライターソケットから抜いてください。
- 充電を再開するときは、エンジンをかけてからシガープラグをシガーライターソケットに差し込んでください。

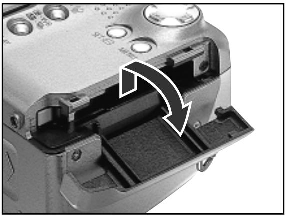
コンパクトパワーアダプターを使って充電する

カーバッテリーケーブルのかわりにコンパクトパワーアダプター CA-560を接続し、家庭用電源から電源を取って、バッテリーを充電することもできます。



CFカードを入れる

1 メインダイヤルを OFF にする



2 CFカードスロットカバーを矢印の方向にスライドさせて開く



CFカード取り出しボタン

3 ラベル面を手前にして、CFカードを差し込む

- CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと差し込んでください。
- CFカードを取り出すときは、このボタンを押して取り出します。

- 緑色のインジケーターが点滅しているときは、CFカードへの記録中/読み出し中/消去中、またはコンピューターへのデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - ・ カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - ・ カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーを開ける。
  - ・ CFカードスロットカバーを開けたり、CFカードを取り出す。
- 電源が入っているときは、絶対にCFカードスロットカバーを開けないでください。
- 他社のカメラや、アプリケーションソフトウェアで編集したCFカードを使用すると、誤動作する恐れがありますのでご注意ください。

CFカードの種類と記録画像数の目安

		FC-8M	FC-16M	FC-32M	FC-64M	FC-128M
L （ラージ） 2272×1704画素	S	3	7	14	30	61
	◢	6	13	27	54	110
	▟	13	26	54	110	220
LM（ミドル1） 1600×1200画素	S	7	14	30	61	123
	◢	13	26	54	109	219
	▟	26	52	108	217	435
M （ミドル2） 1024×768画素	S	12	25	53	107	215
	◢	23	46	94	189	379
	▟	42	84	174	349	700
S （スモール） 640×480画素	S	29	58	120	241	483
	◢	47	94	196	394	789
	▟	83	165	337	677	1355＊
RAW 2272×1704画素		1	4	10	20	42
動画	320 320×240画素	30秒	61秒	124秒	250秒	502秒
	160 160×120画素	112秒	223秒	457秒	916秒	1834秒

＊表示パネルには、3桁までしか表示されません。（1000以上は、「999」と表示されます。）

・ この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、撮影モードなどにより変わります。
・ 動画の1回の最長記録時間は、320：約30秒、160：約120秒です。表中の数値は、繰り返し撮影した場合の最長時間です。
・ S（スーパーファイン）、◢（ファイン）、▟（ノーマル）は圧縮率を表します。

取り扱いについて

・ CFカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
・ CFカードを分解したり、改造しないでください。
・ 温度差の大きな場所へ急に移動すると、CFカードに水滴が付き（結露）、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密閉しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。
  結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
・ CFカードを保管するときは、専用のケースに入れてください。
・ CFカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  - ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  - 高温多湿の場所

> マイクロドライブは、ハードディスクを使用した記録媒体であり、大容量な上に、1MBあたりの単価が安いという利点があります。しかし、フラッシュメモリーを搭載したCFカードに比べると振動や衝撃に弱いので、マイクロドライブをお使いになるとき、特に記録や再生中は、カメラに振動や衝撃を加えないよう、十分にご注意ください。

日付/時刻を設定する

1 メインダイヤルをまたはにする

- カメラの電源が入ります。



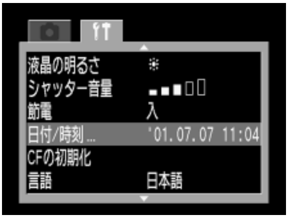
これは[(撮影)]メニューです。

2 MENUボタンを押す

- [(撮影)]メニューまたは[(再生)]メニューが表示されます。

3 十字ボタンの▶で[(設定)]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



4 十字ボタンの▲▼で[日付/時刻]を選び、SETボタンを押す



5 日付と時刻を設定する

- 十字ボタンの◀ ▶で設定したい項目を選びます。
- 十字ボタンの▲▼で設定内容を変更します。

6 SETボタンを押す

- 設定後、MENUボタンで操作を終了します。

- カメラの電源を入れたとき、日付/時刻の設定メニューが表示されたときは、コイン型リチウム電池の残量が低下し、日付の設定が消えています。電池を交換後、再度、日付/時刻を設定し直してください。➔p.126
- 2030年まで設定できます。

言語を設定する

1 メインダイヤルを または にする

- カメラの電源が入ります。



2 MENUボタンを押す

- [(撮影)]メニューまたは[(再生)]メニューが表示されます。

3 十字ボタンの▶で[(設定)]メニューを選ぶ

- JUMPボタンを押すと、メニューの切り換えができます。



4 十字ボタンの▲▼で[言語]を選び、SET ボタンを押す



5 言語を選ぶ

- 十字ボタンの ▲▼ または ◀▶ で表示したい言語を選びます。

6 SETボタンを押す

- 設定後、MENUボタンで操作を終了します。

- 再生モードでは、SETボタンを押しながらJUMPボタンを押すと、言語設定画面を表示できます。(ただし、カードフォトプリンター CP-10(別売)接続時は設定できません。)

ネックストラップを取り付ける



ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。もう一方のストラップ取り付け部にも、同じようにストラップを取り付けます。

- カメラをネックストラップで下げているときは、振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

レンズキャップを取り付ける



レンズキャップをレンズにかぶせるようにして取り付けます。カメラの使用後は、レンズキャップを取り付けて保管してください。

- レンズキャップのひもは、ストラップに取り付けます。
- カメラの電源を入れる前に、レンズキャップを外してください。

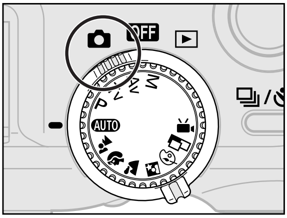
ソフトケース（別売）を使う



ソフトケースには、カメラ、CFカード、ワイヤレスコントローラーを収納してお使いいただけます。

基本操作

電源を入れる



(撮影)にした場合です。

1 メインダイヤルをOFF以外にする

- メインダイヤルがOFFのときは電源が切れ、これ以外のときは電源が入ります。
- 電源を入れると起動音が鳴り、起動画面が表示されます。(起動時の音量を変更するとき ➔p.115)
  ただし、次の場合は、起動画面は表示されず、起動音も鳴りません。
  ･液晶モニターを閉じているとき
  ･液晶モニターが非表示のとき
  ･PCケーブル、AVケーブルを接続しているとき

- レンズキャップを付けたまま電源を入れると、表示パネルに「LENS」と表示され、警告音が鳴ります。その場合は、レンズキャップを外し、一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。
- 撮影時は、レンズを触らないように注意してください。また、レンズを指で押さえるなど無理な力をかけないようにご注意ください。動作不良や故障の原因となります。その場合は、一度電源を切ってから、再度電源を入れてください。

節電機能

カメラには、節電機能が付いています。節電機能を[入]にしていると、次のようなときに電源が切れます。

撮影時：約3分間、何も操作をしないと電源が切れます。節電機能を[切]にしている場合でも、液晶モニターを表示して、約3分間、何も操作をしないと、液晶モニターは非表示になります。

再生時：約5分間、何も操作をしないと電源が切れます。

カードフォトプリンター CP-10(別売)接続時

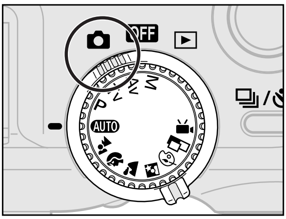
：約5分間、カメラの操作を何もせず、またプリンターで何もプリントしないと電源が切れます。

コンピューター接続時

：約5分間、何も操作をしないと、コンピューター画面に警告メッセージが表示されます。さらに1分間何も操作をしないとカメラの電源が切れます。ただし、家庭用電源をお使いの場合は、節電機能は働きません。

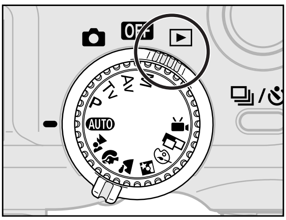
- 節電機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しすると復帰します。
- 節電機能が働いて電源が切れても、微量の電力が消費されますのでご注意ください。
- スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません。➜p.91
- 設定メニューで節電機能を無効にすることもできます。➜p.115

撮影/再生を切り換える



撮影するとき

メインダイヤルを📷にします。



再生するとき

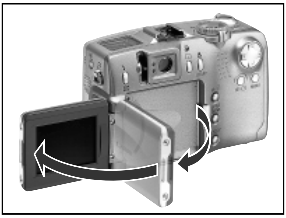
液晶モニターを開き、メインダイヤルを▶にします。

撮影モードから、すばやく再生モードに切り換えたときは、レンズは収納されません。撮影直後に画像を確認したり、消去し、すぐにまた撮影できるため便利です。

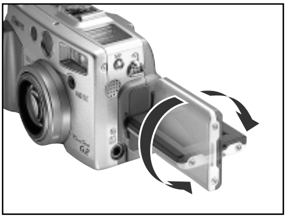
なお、再生中は、レンズに触らないように注意してください。

液晶モニターの使い方

画像を確認しながら撮影したり、撮影した画像を再生するとき、メニュー操作を行うときは液晶モニターを使います。
液晶モニターは次の範囲で動かせます。



左右に180度開きます。90度の位置でいったんロックします。



レンズ側に180度、ファインダー側に90度回転します。



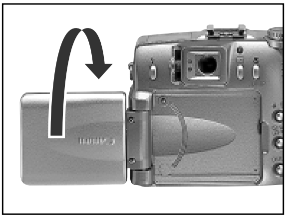
液晶モニターを内側にしてカチッと音がするまで閉じると、液晶モニターの表示は自動的に消えます。液晶モニターの保護のため、カメラを使わないときは、必ずこの状態にしてください。

撮影時のご注意

極端に明るい被写体（一部に高輝度な部分を含む被写体）を撮影すると、液晶モニター上に、縦に赤い帯が表示されることがあります。動画には、この帯が記録されますが、静止画には記録されません。これは、CCD特有のスミア現象で、カメラの故障ではありません。

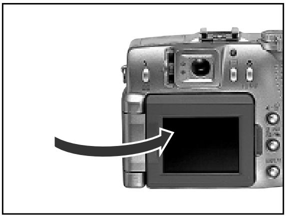
- 家庭用電源使用中は、液晶モニターにDCケーブルが触れないようにご注意ください。

次のように回転することもできます。



1 液晶モニターを開き、レンズ側に180度回転させる

- この状態のときは、アイコンやメッセージは液晶モニターに表示されません。
- レンズ側から液晶モニターを見て撮影できるように、画像が鏡像で表示されます。



2 液晶モニターを閉じる

- カチッと音がするまで液晶モニターを閉じてください。きちんと押し込まれていないと、画像が鏡像で表示され、アイコンやメッセージが表示されません。
- 液晶モニターを閉じると、アイコンやメッセージが表示されるようになり、画像の左右が正しくなります。

表示を切り換える

DISPLAYボタンを押すと、液晶モニター表示の切り換えができます。

(カメラ)のとき

・ DISPLAY ボタンを押すたびに、液晶モニター表示（情報表示なし）/ 液晶モニター表示（情報表示あり）/液晶モニター非表示に切り換わります。
・ 撮影直後は、液晶モニターに画像が表示されている間にSETボタンを押し、続けてDISPLAYボタンを押すと、再生時と同様に撮影した画像の詳細表示を確認できます。

- 液晶モニター表示（情報表示なし）/液晶モニター表示（情報表示あり）/液晶モニター非表示の設定は、カメラの電源を切っても記憶され、次回電源を入れたとき、直前の状態で使用できます。ただし、液晶モニターをつけて撮影しているとき、バッテリー残量低下アイコン（ ）が表示された場合は、次回電源を入れたときに液晶モニターが表示されないことがあります。
- 液晶モニター表示（情報表示なし）でも、撮影モードを変更をしたときは、情報が約6秒間表示されます。
- モードダイヤルを や 、 にしたときは、設定に関わらず、液晶モニターがつきます。

- 光量不足のときは、撮影準備完了時に液晶モニター中央に （手ブレ警告）が表示されます。ストロボをオンにするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。

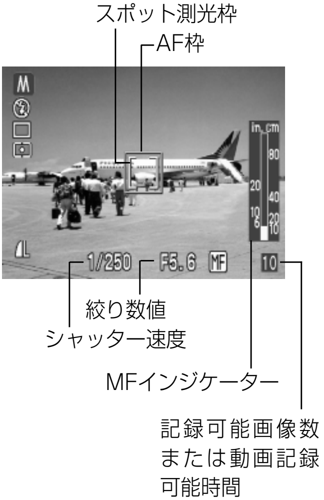
▶のとき

- メインダイヤルを▶にすると、液晶モニターがつきます。
- DISPLAYボタンを押すたびに、情報表示の切り換えができます。
  シングル再生　　:簡易表示→詳細表示→非表示
  インデックス再生 :簡易表示→非表示

液晶モニターに表示される情報

撮影や再生時、カメラの設定状態や撮影可能画像数、撮影日時などが表示されます。

（カメラ）のとき



情報表示のときは、次の情報を表示します。

AUTO （各撮影モードアイコン） P Tv Av M	撮影モード	p.14
（ストロボアイコン）	ストロボ	p.44
（撮影方法アイコン）	撮影方法	p.54/55
（測光方式アイコン）	測光方式	p.77
AWB （ホワイトバランスアイコン）	ホワイトバランス	p.69
-2…±0…+2	露出補正	p.68
（AEBアイコン）	AEB撮影	p.72
（ストロボ調光補正アイコン）	ストロボ調光補正	p.73
（圧縮率アイコン）	圧縮率	p.58
L M1 M2 S 320 160	記録画素数	p.58
RAW	記録形式	p.60
✱	AEロック/FEロック	p.74/76
●（赤）	動画撮影	p.52
（マクロアイコン）	マクロモード	p.53
MF	マニュアルフォーカス	p.80
4.3x 5.3x 6.7x 8.2x 11x	ズーム倍率*	p.57
（手ブレ警告アイコン）	手ブレ警告	p.32
（バッテリーアイコン）	バッテリー残量低下	p.18

- 表示パネルと液晶モニターとで、表示されるアイコンが異なる場合があります。
- ■のアイコンは、情報表示なしのときも表示されます。
- これら以外に左の図のように、AF枠、スポット測光枠、シャッター速度、絞り数値、ＭＦインジケーター（マニュアルフォーカス時）が表示されます。

＊光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。デジタルズーム時に表示されます。

▶のとき



簡易表示では、次の情報を表示します。

S	圧縮率	p.58
L M1 M2 S	記録画素数	p.58
RAW	記録形式	p.60
AVI	動画	p.52
O-n	プロテクト情報	p.94

＊これら以外に左の図のように、ファイル番号、画像番号、撮影日時が表示されます。



詳細表示では、さらに次の情報を表示します。

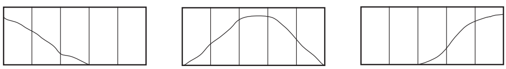
AUTO（V N S BW）P Tv Av M	撮影モード	p.14
320 160	記録画素数	p.58
-2···±0···+2	露出補正	p.68
AWB	ホワイトバランス	p.69
[ ] [•]	測光方式	p.77
±%	ストロボ調光補正	p.73
	マクロモード	p.53
MF	マニュアルフォーカス	p.80

＊これら以外に左の図のように、ＩＳＯ感度、シャッター速度、絞り数値、ヒストグラム、高輝度警告が表示されます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが、左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。

暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいときは、マイナス側に補正して撮影します。➔p.68



暗い画像　普通の明るさの画像　明るい画像

高輝度警告について

情報詳細表示にしたとき、撮影画像に露出オーバー部分があると、その個所が点滅表示されます。ヒストグラムを参考にマイナス側に補正して、再撮影することをおすすめします。

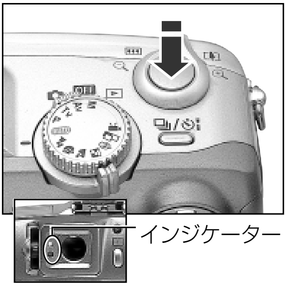
画像によっては、以下の情報を表示することがあります。

♪	音声ファイル（WAVEファイル）が付いています。
♪?	WAVEファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルが付いています。
⚠	DCFの規格と異なる構造を持つJPEGファイルです。
?	認識できない形式のファイルです。

- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、あるいは他のカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合、情報を正しく表示できないことがあります。

シャッターボタンの押し方

シャッターボタンは、半押しと全押しの2段階で動作します。



半押し－浅く押したとき

露出、フォーカス、ホワイトバランスを自動設定します。

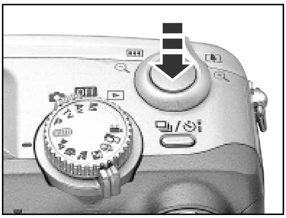
- インジケーターは、次のように点灯、点滅します。
  - ·緑点灯：撮影準備完了（電子音が2回鳴ります。）
  - ·橙点灯：ストロボ発光
  - ·橙点滅：手ブレ警告/露出不足
  - ·黄点灯：マクロ撮影/マニュアルフォーカス撮影
  - ·黄点滅：ピントが合いにくいとき（電子音が1回鳴ります。）

＊黄点滅したときは、フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影してください。➔p.79

AF枠



- ＡＦ枠は、次のようになります。（液晶モニターがついているとき）
  - ·緑色　：撮影準備完了
  - ·黄色　：ピントが合いにくいとき



全押し－深く押したとき

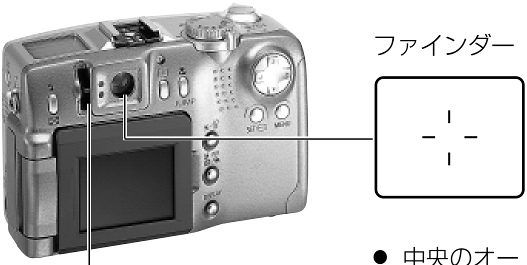
撮影します。

- 撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。シャッター音が鳴るまでカメラを動かさないでください。
- ＣＦカードに記録中は、緑色のインジケーターが点滅します。

- シャッターボタンを半押ししたときに、橙色、または黄色のインジケーターが点滅していても、そのまま全押しして撮影できます。
- 撮影した画像は、いったん内部メモリーに保存され、順次ＣＦカードに書き込まれていきます。内部メモリーに空きがある間は、撮影後、すぐに次の撮影ができます。
- 電子音、シャッター音の[入/切]は、メニューで設定できます。➔p.115
- シャッター音を[切]にしていても、電子音を[入]に設定している場合は、全押しするとピッという電子音が1回鳴ります。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。

ファインダーを使って撮影する

光学式ファインダーを装備しています。



- 中央のオートフォーカス範囲に被写体を入れて撮影してください。
- ファインダーから被写体がはっきり見えるように、視度調整レバーで調整してください。
- ファインダーの視野率は、約84%です。

パララックスについて

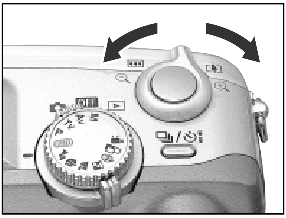
ファインダーを使って撮影する場合は、ファインダーの特性上、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲にズレ(パララックス)が生じます。特に、被写体の距離が近い場合には、パララックスが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。マクロモードでは、液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。

AF枠を選択しているとき

液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。AF枠の選択方法は、p.67をご覧ください。

ズーム（画角）を調節する

35mmフィルム換算で、34～102mmの範囲で画角を調節できます。



望遠/広角

側に押すと、被写体を大きく写します（望遠）。
側に押すと、被写体を小さく写します（広角）。



デジタルズーム

光学ズームと合わせて最大約11倍に拡大して撮影できます。→p.57

- 液晶モニター非表示時、または 、、 では、デジタルズームは使用できません。

- デジタルズームでは、拡大するほど画質は粗くなります。

メニューの選択と設定のしかた

撮影時や再生時の設定や、日付/ 時刻、電子音などのカメラの設定は、メニューを使って操作します。液晶モニターを見ながら、次のように操作してください。

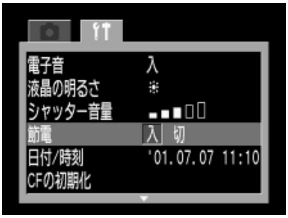
1 MENUボタンを押す

- メインダイヤルが のときは[(撮影)]メニューが表示され、 のときは[(再生)]メニューが表示されます。

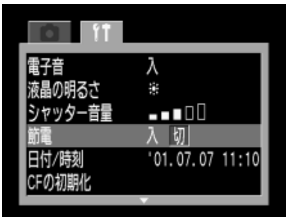


2 十字ボタンの◀▶でメニューを切り換える

- 十字ボタンの▶を押すと[(設定)]メニューが表示され、◀を押すと[(撮影)]メニューまたは[(再生)]メニューが表示されます。
- JUMPボタンでも、同様にメニューの切り換えができます。



3 十字ボタンの▲▼でメニュー項目を選ぶ



4 十字ボタンの◀▶で設定したい内容を選ぶ

- 「...」のある項目では、SETボタンを押して次のメニューを表示してから設定します。設定後、SETボタンを押して設定内容を確定します。

5 MENUボタンを押す

- MENUボタンを押すとメニューが終了し、設定が有効になります。
- 撮影モードのときは、シャッターボタン半押しでもメニューを終了できます。

メニュー設定項目と初期状態

各メニューで設定できる項目と初期状態は、次の通りです。

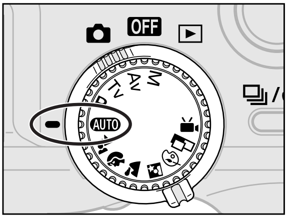
	メニュー項目	設定内容	参照先
撮影メニュー（赤）	記録画素数（以外）	L 2272×1704* / M1 1600×1200 / M2 1024×768 / S 640×480	p.58
	記録画素数（）	320 320×240* / 160 160×120	
	圧縮率	スーパーファイン / ファイン* / ノーマル	p.58
	記録形式	JPEG* / RAW	p.60
	ISO感度	50* / 100 / 200 / 400 / AUTO	p.82
	デジタルズーム	入 / 切*	p.57
	AFモード (1)	CONT* / SINGLE	p.81
	測光方式	評価測光* / 中央部重点平均測光	p.77
	スポット測光	中央固定* / AF枠連動	p.77
	連続撮影方式	* /	p.55
	撮影の確認	切 / 2秒* / 10秒	p.43
	番号リセット機能	入 / 切*	p.83
	コントラスト	− / 0* / ＋	p.82
	シャープネス	− / 0* / ＋	p.82
	色の濃さ	− / 0*/ ＋	p.82
再生メニュー（青）	プロテクト	プロテクトを設定します。	p.94
	回転	回転して表示します。	p.90
	全消去	すべての画像を消去します。	p.96
	スライドショー	自動再生します。	p.91
	プリント指定	プリント指定をします。	p.98
設定メニュー（黄）	電子音	入* / 切	p.36
	液晶の明るさ	標準 / 明るい*	p.115
	シャッター音量（撮影時）	切 / 1 / 2* / 3 / 4 / 5	p.36
	再生音量（再生時）	切 / 1 / 2 / 3* / 4 / 5	p.89
	節電	入* / 切	p.115
	日付/時刻	日付/時刻を設定します。	p.26
	CFの初期化	CFカードを初期化します。	p.97
	言語	English / Deutch / Français / Nederlands / Dansk / Suomi / Italiano / Norsk / Svenska / Español / 汉语 / 日本語*	p.27
	ビデオ出力方式	NTSC* / PAL	p.116

* 初期状態
(1)液晶モニターがついていない場合は、SINGLEに固定されます。
・撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります。

撮影 - カメラまかせの簡単撮影

AUTO オートで撮る

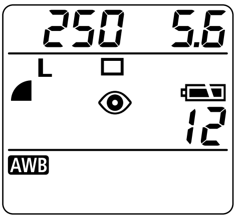
シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、カメラまかせの撮影ができます。



1 モードダイヤルを AUTO にする

2 被写体にカメラを向ける

3 ズームレバーを押して画角(画面内の被写体の大きさ)を決める





AF 枠

4 シャッターボタンを半押しする➔p.36

- シャッターボタンを押してピントを合わせます。撮影準備が完了すると電子音が2回鳴り、ファインダー横の緑色のインジケーターが点灯します。液晶モニターがついているときは、A F 枠が緑色になります。
- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- ピントが合いにくいときは、電子音が1回鳴り、黄色のインジケーターが点滅します。このとき、AF枠は黄色になります。

5 シャッターボタンを全押しする➔p.36

- シャッター音が1回鳴り、撮影が完了します。
- 液晶モニターが開いているときは、撮影した画像が約2秒表示されます。

- 以下の設定を変更できます。

記録画素数	:L(ラージ)*/M1(ミドル1)/M2(ミドル2)/S(スモール)
圧縮率	:S(スーパーファイン)/(ファイン)*/(ノーマル)
ストロボ設定	:(赤目緩和オート)*/(オート)/(オフ)
撮影方法	:シングル撮影*/セルフタイマー
マクロモード	:切*/入
デジタルズーム	:切*/入
AFモード	:CONT*/SINGLE
撮影の確認	:切/2秒*/10秒
番号リセット機能	:切*/入

* 初期状態

- 撮影後、液晶モニターに撮影画像を表示する時間を変更したり、表示しないように設定することができます。→p.43

撮影直後に画像を確認する

撮影した画像を確認する

液晶モニターを開いているときは、撮影直後、シャッターボタンを離しても約2秒間、撮影した画像を表示しますが、次の方法で確認することもできます。

シャッターボタンを全押しし続ける

シャッターボタンを全押しし続けている間、液晶モニターに画像を表示できます。

SETボタンを押す

撮影した画像が表示されている間にSET ボタンを押すと、シャッターボタンを離しても、画像を表示し続けます。シャッターボタンを半押しにすると解除されます。

- 画像確認中に次のことができます。参照先をご覧ください。
  ·画像を消去する。➜p.9
  ·画像の詳細情報を表示する。➜p.34
  ·画像を拡大表示する。➜p.86

撮影した画像の確認時間を変更する

画像の確認時間を[2秒]から[切]または[10秒]に変更できます。

1 [(撮影)]メニューから[撮影の確認]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➜p.39



2 確認時間を選び、MENUボタンを押す

- [切]の場合、画像は表示されません。
- [2秒]または[10秒]の場合、シャッターボタンを離しても、2秒または10秒間、画像を表示します。
- シャッターボタンを全押しし続けると、設定時間に関わらず画像を表示できます。
- 画像の表示中でも撮影はできます。

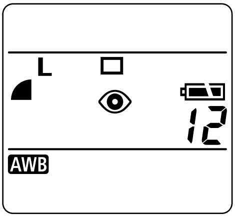
- 電源を切っても設定は保持されます。

⚡ 内蔵ストロボを使って撮る

撮影状況に合わせて、ストロボを使って撮影できます。

◉	赤目緩和オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。ストロボ発光の際には、常に赤目緩和ランプを発光します。
⚡A	オート*	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。
⚡◉	赤目緩和オン	常に赤目緩和ランプとストロボを発光して撮影します。
⚡	オン	常にストロボを発光して撮影します。
⚡(off)	オフ	撮影時にストロボは発光しません。

＊：オートのときは、アイコンが表示パネルに表示されません。



1 ⚡ボタンを押してストロボモードを切り換える

- 選択したストロボモードが表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー横の橙色のインジケーターが点灯した場合は、ストロボが発光します。
- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

ストロボの設定について

撮影モードによって設定できないモードがあります。

		AUTO								P	Tv	Av	M
◉	赤目緩和オート	○*	○	○*	○	○*	○	–	–	○	–	–	–
⚡A	オート	○	○*	○	○	○	○*	–	–	○	–	–	–
⚡◉	赤目緩和オン	–	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○
⚡	オン	–	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○
⚡(off)	オフ	○	○	○	○*	○	○	△*	○*	○*	○*	○*	○*

＊：初期状態

○：設定可　△：最初の1画像のみ設定可　－：設定不可

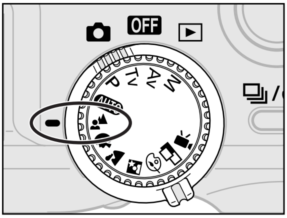
- ストロボ同調最高シャッター速度は1/250秒です。1/250秒よりも高速のシャッター速度を設定した場合は、自動的に1/250秒に再設定され、撮影されます。
- ストロボの充電には約10秒かかる場合があります。充電時間は使用状況やバッテリーの残量などにより変わります。
- **M**のときは、フル発光します。**M**以外のときは、自動調光で発光します。
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。
- ストロボの発光は2回行われ、プリ発光し、続いてメイン発光します。プリ発光(ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光)で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光(ストロボ撮影を行うための発光)に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。

赤目緩和機能について

暗い所でストロボを発光すると、ストロボの光が反射して目が赤く写ることがあります。このようなときは、赤目緩和で撮影してください。その場合、写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るよう声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」とより効果があります。

パンフォーカスで撮る

フォーカスが固定されているため、シャッターボタンを押したとき、すばやい撮影ができます。シャッターチャンスを逃がすことなく、被写体との距離やピントを気にせず気軽に撮影できます。画角はワイド端に固定されます。



1 モードダイヤルを にする

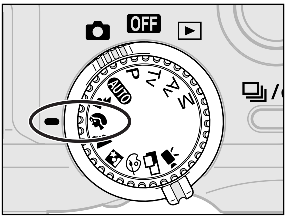
- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

- ズーム、フォーカスロック、マニュアルフォーカス、マクロモード、AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、AFモード、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。

- 撮影できる距離は65cm(ワイド端)〜∞の範囲です。

ポートレートを撮る

背景をぼかして人物を浮き立たせたいときに使います。



1 モードダイヤルを にする

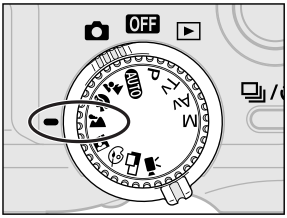
- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

- AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。

- 被写体の上半身が、ファインダーまたは液晶モニターいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。
- レンズを望遠側にすると、背景をさらにぼかすことができます。

風景を撮る

広がりのある風景を撮影するときに使います。



1 モードダイヤルを にする

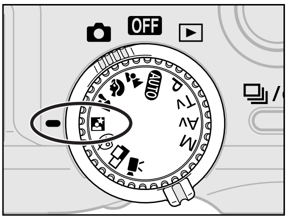
- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

- マクロモード、AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。

- ではシャッター速度が遅くなりやすいので、液晶モニター中央に(手ブレ警告)が表示されたら、三脚を使用して撮影してください。

夜景を撮る

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影するときに使います。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度で、それぞれをきれいに撮影することができます。



1 モードダイヤルを にする

- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

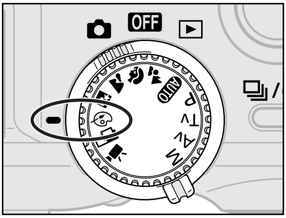
- マクロモード、AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。
- 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- シャッター速度が遅いので、ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- EXシリーズのスピードライト(p.120)を使用しても、で撮影できます。
- で日中に撮影すると、AUTOと同じ撮影効果になります。

色効果を変えて撮る

色効果を変えて撮影できます。

	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いで撮影します。
	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりした色合いで撮影します。
	セピア	セピア色で撮影します。
	白黒	白黒で撮影します。



1 液晶モニターを開き、モードダイヤルをにする

- 液晶モニターに、色効果設定メニューが表示されます。



2 十字ボタンの◀▶で色効果を選ぶ

3 SETボタンを押す

- **SET** ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定した色効果で撮影することもできます。

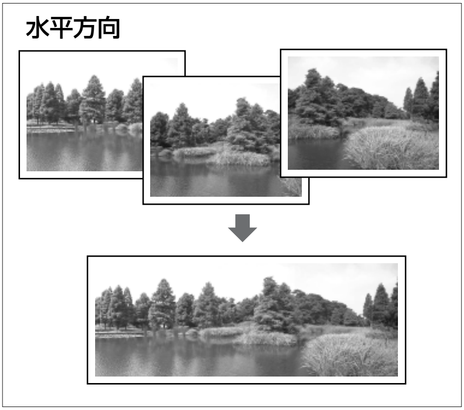
4 撮影する

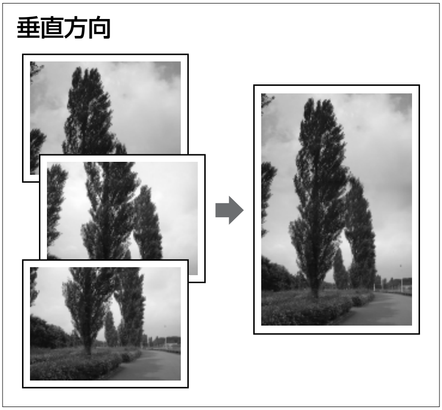
- 撮影手順は、「オートで撮る(p.41)」と同じです。
- 設定後、**SET**ボタンを押すと設定メニューが表示され、設定を変更できます。

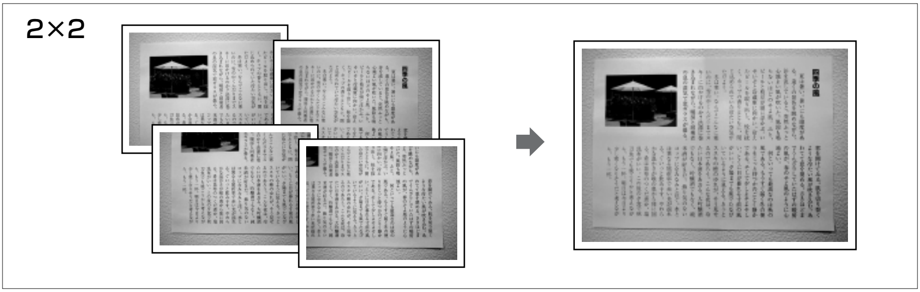
- AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、記録形式(RAW)、画質調整(ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ)は設定できません。
- [(白黒)][(セピア)]を選んだときは、ホワイトバランスは設定できません。

スティッチアシストで撮る

撮影した画像をコンピューターで合成（スティッチ）し、パノラマ画像を作るときに使います。



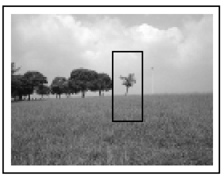


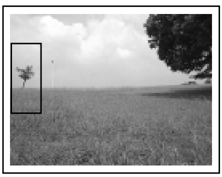


- コンピューターでの画像合成は、同梱の「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえ方

スティッチは、隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分には、できるだけ特徴のある被写体（目印となる被写体）を入れて撮影してください。



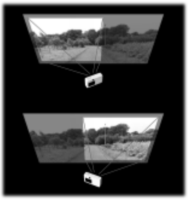


- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30～50%になるように撮影します。また、上下のズレは、画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体などが入らないように注意してください。
- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。物体がゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。

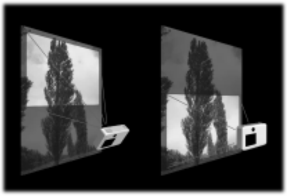
遠くの風景を撮るとき

下図のように、カメラを中心に回転して撮影します。

横方向：左右に回転

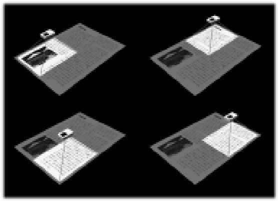


縦方向：上下に回転



至近距離で撮影するとき

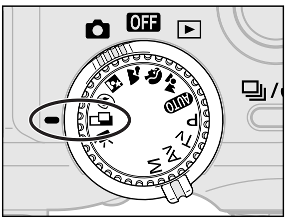
カメラをスライド（カメラを被写体に対して平行移動）させます。



撮影する

スティッチアシストモードには、次の5つの撮影方向があります。

	左から右方向へ水平に撮影します。
	右から左方向へ水平に撮影します。
	下から上へ垂直に撮影します。
	上から下へ垂直に撮影します。
	左上を基点に時計回りに撮影します。





1 液晶モニターを開き、モードダイヤルを にする

- 液晶モニターがつきます。

2 十字ボタンの◀▶で撮影方向を選び、SETボタンを押す

- **SET**ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して撮影することもできます。

3 最初の画像を撮影する

- 1画像目の撮影で、露出やホワイトバランスがロックされます。



のとき



のとき

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

- 画像の重なり部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- 十字ボタンの◀▶を押すと撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。

5 同様の操作で3画像目以降を撮影する

- 水平/垂直方向の撮影では、最大26画像まで撮影できます。

6 最後の画像の撮影後、SETボタンを押す

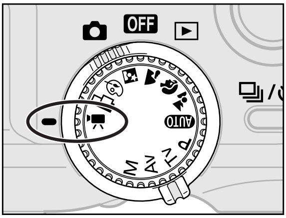
- デジタルズーム、ストロボ（赤目緩和オート、オート、赤目緩和オン）、連続撮影、AEB撮影、AEロック、FEロック、AF枠、測光方式、記録形式（RAW）、画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）は設定できません。
- テレビと接続しても、液晶モニターの画像をテレビに表示して撮影することはできません。

- ズーム（画角）、ストロボ（オン·オフ）、記録画素数、露出、ホワイトバランス*、ストロボ調光補正は、1画像目のみ設定できます。2画像目以降の撮影では、その設定が保持されます。

  ＊マニュアルホワイトバランスの場合、 では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 撮影の途中で液晶モニターを閉じると、その時点でスティッチアシスト撮影を終了します。再度、液晶モニターを開いてスティッチアシスト撮影を行ったときは、1画像目からの撮影になります。

動画を撮る

動画を撮影するときに使います。記録画素数は、[（撮影）]メニューの[記録画素数]で320×240（初期状態）または160×120を選べます。→p.58



1 **液晶モニターを開き、モードダイヤルを にする**

- 液晶モニターがつき、記録可能時間（秒数）が表示されます。

2 **シャッターボタンを全押しする**

- 撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、表示パネルに撮影時間が表示され、液晶モニター右上には赤丸が表示されます。

3 **撮影を終了するときは、再度シャッターボタンを全押しする**

- 1回の撮影時間（約15フレーム/秒）は、320で約30秒*、160で約120秒*です。これらの時間が経過するか、またはCFカードの容量がいっぱいになると自動的に撮影が終了します。

 ＊当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。

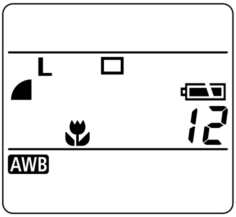
- 撮影中は、マイクに触れないようにしてください。
- AE、AF、ホワイトバランス、ズーム（画角）は、撮影を開始したとき（最初のフレーム）の設定値に固定されます。
- 撮影後、CFカードへの記録中は緑色のインジケーターが点滅します。このときは撮影できません。
- デジタルズーム、ストロボ、連続撮影、AEB撮影、ストロボ調光補正、AF枠、AEロック、FEロック、測光方式、AFモード（シングル）、圧縮率、記録形式（RAW）、画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）は設定できません。

- 音声は、モノラルで録音されます。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。

- 動画ファイル（ファイル形式：AVI、圧縮形式：Motion JPEG）をコンピューターで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です。

至近距離で撮る

レンズ前面から被写体までの距離が6cm(ワイド端)/20cm(テレ端)～70cmのときは、マクロモードで撮影します。



1 DISPLAY ボタンを押して液晶モニターをつける

2 ボタンを押す

- 表示パネルと液晶モニターにが表示されます。
- 再度ボタンを押すと、マクロモードを解除できます。

3 撮影する

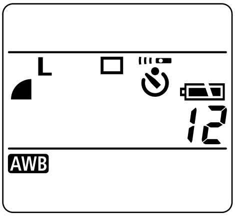
- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横の黄色のインジケーターが点灯します。
- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

- 、、では設定できません。
- マクロモードでストロボ撮影するときは、別売のマクロリングライト MR-14EXをお使いになることをおすすめします。撮影時は、20cm以上離れて撮影してください。これより至近距離の場合は、**Av**または**M**で、絞りを絞って撮影してください。

- マクロモードでは、必ず液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーをお使いになると撮影範囲がずれます。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、ワイド端で約82×60mm、テレ端では約84×62mmとなり、ほぼ名刺サイズが画面いっぱいに撮影できます。また、マクロモード時にクローズアップレンズ 250D(p.124)を使用した場合は、約50×38mm(テレ端時)の範囲を撮影できます。
- 電源を切ると、設定は解除されます。

セルフタイマーを使って撮る

セルフタイマーを使って撮影します。どの撮影モードでも使えます。



1 ボタンを押す

- 表示パネルに が表示されるまでボタンを押します。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- 再度 ボタンを押すと、セルフタイマー撮影を解除できます。

2 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅し、10秒後に撮影されます。撮影2秒前になると点滅が速くなります。
- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」と同じです。

- 電源を切ると、設定は解除されます。

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。

	画像を確認しながら連続撮影するときにおすすめします。ただし、シャッター間隔は より長くなります。
	早いシャッター間隔で連続撮影したいときにおすすめします。ただし、大きい画素数、または高画質で撮影すると、内部メモリーが より早くいっぱいになります。

1 / ボタンを押す

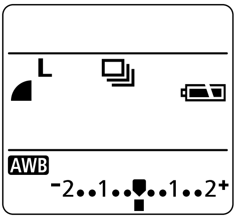
- 表示パネルに が表示されるまでボタンを押します。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- 再度 / ボタンを押すと、連続撮影を解除できます。



2 [(撮影)]メニューから[連続撮影方式]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた →p.39

3 [ ]または[ ]を選び、MENUボタンを押す



4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- シャッターボタンを離すと撮影が終了します。
- 連続撮影速度は、[ ]のときは約1.5画像/秒*、[ ]のときは約2.5画像/秒*です。

  ＊ラージ/ ファイン、液晶モニター非表示時(当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。)

- AUTO、□、▸のときは設定できません。
- ⊞の場合、液晶モニターに撮影画像は表示されません。
- 外付けストロボを取り付けている場合、ストロボは発光しません。
- 内蔵ストロボは使用できますが、撮影のたびにストロボの充電時間がかかるため撮影間隔は長くなります。

- CFカードの容量がいっぱいになるまで、連続撮影できます。
- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が多少遅くなることがあります。
- 電源を切ると、通常の撮影に戻りますが、連続撮影方式の設定は保持されます。次回、同じ連続撮影方式で撮影する場合は、手順2、3の操作は必要ありません。

デジタルズームで撮る

光学ズームと合わせて、最大約11倍に拡大して撮影できます。

1 DISPLAY ボタンを押して液晶モニターをつける

2 モードダイヤルを、、以外の任意の位置にする



3 [（撮影）]メニューから[デジタルズーム]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➜p. 39

4 [入]を選び、MENUボタンを押す

倍率表示



5 ズームレバーを側に押す

- 最も望遠側（テレ端）まで拡大すると、いったん停止します。再度、ズームレバーを側に押すと、さらに拡大（4.3倍、5.3倍、6.7倍、8.2倍、11倍）できます。
- 側に押すと、倍率が下がります。

6 撮影する

- 撮影手順は、「AUTOオートで撮る（p.41）」と同じです。

- 、、、記録形式がRAWのときは設定できません。
- デジタルズームは、拡大するほど画質が粗くなります。
- デジタルズームの[入]/[切]の設定は、電源を切っても保持されます。次回、同じ設定で撮影する場合は、手順3、4の操作は必要ありません。

撮影 - 目的に合わせた応用撮影

記録画素数や圧縮率、シャッター速度、絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。

- 設定を変更した後の撮影の手順は、「AUTOオートで撮る(p.41)」をご覧ください。

記録画素数と圧縮率を変更する

目的に応じて、記録画素数、圧縮率(動画を除く)を変更できます。

記録画素数は、S(スモール)→M2(ミドル2)→M1(ミドル1)→L(ラージ)の順に大きくなります。大きくプリントしたい場合は、大きな画素数を選ぶことをおすすめします。また小さなシールにプリントする場合や、電子メールで送ったり、より多くの画像を撮影したいときなどは、小さな画素数をおすすめします。

画質は、(ノーマル)→(ファイン)→S(スーパーファイン)の順に高画質になります。より良い画質で撮影したい場合はS(スーパーファイン)を、より多くの画像を撮影したい場合は(ノーマル)をおすすめします。通常は、(ファイン)で十分な画像が得られます。CCDのオリジナルデータを記録したい場合は、RAWを選んでください。➔p.60

記録画素数		
L	ラージ	2272×1704画素
LM(M1)	ミドル1	1600×1200画素
M(M2)	ミドル2	1024× 768画素
S	スモール	640× 480画素

( )内は、液晶モニター上の表示

圧縮率	
S	スーパーファイン
	ファイン
	ノーマル

動画の場合は、次の記録画素数で撮影できます。

記録画素数	
320	320× 240画素
160	160× 120画素

1 モードダイヤルを任意の位置にする

2 [(撮影)]メニューから[記録画素数]または[圧縮率]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39



記録画素数（以外）

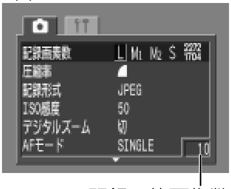


圧縮率

3 必要な記録画素数または圧縮率を選び、MENUボタンを押す

- 画面右下には、記録可能画像数や記録可能時間が表示されます。

以外



記録可能画像数



動画記録可能時間

- 表示パネルに選択した記録画素数や圧縮率が表示されます。

4 撮影する

1画像の容量（目安）

記録画素数		圧縮率		
		S		
L	(2272×1704)	2002 KB	1116 KB	556 KB
LM（M1）	(1600×1200)	1002 KB	558 KB	278 KB
M（M2）	(1024× 768)	570 KB	320 KB	170 KB
S	(640× 480)	249 KB	150 KB	84 KB
RAW	(2272×1704)	2862 KB		
動画	320 (320× 240)	240 KB/秒		
	160 (160× 120)	60 KB/秒		

＊この数値は当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況などにより変わります。
＊CFカードの種類別、記録可能画像数については、p.25をご覧ください。

- では、記録画素数は1画像目のみ設定できます。
- 設定した記録画素数や圧縮率は、他の撮影モードに変更した場合、次のようになります。（は記録画素数のみ）

設定時の撮影モード	変更した撮影モード	撮影モード変更後の記録画素数、圧縮率
AUTO	AUTO P Tv Av M	変更したモードの設定内容に変わります。
		設定内容は変わりません。
	AUTO P Tv Av M	変更したモードの設定内容に変わります。
P Tv Av M	P Tv Av M	設定内容は変わりません。
	AUTO	変更したモードの設定内容に変わります。

- 設定した記録画素数や圧縮率は、電源を切っても解除されません。

記録形式を変更する

記録形式をRAWに変更して撮影できます。

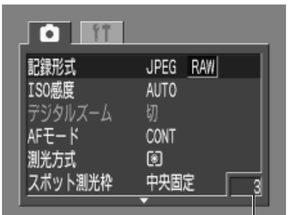
通常のＪＰＥＧ形式は、適正な画質になるようにカメラ内で画像処理を行っています。またCFカードに多くの画像を記録できるように、ファイルサイズを圧縮しています。これは非可逆圧縮ですので、オリジナルと完全に同一のデータを復元することはできません。

一方、RAW形式は、カメラ内で画像処理することなく、CCDからの画像データをそのまま記録します。またＪＰＥＧ形式と同じく記録時に圧縮していますが、オリジナルデータを完全に復元* できる可逆圧縮ですので、非圧縮ファイルと同等のデータ劣化がまったくない高品位な画像が得られます。そのうえ、ＲＡＷ形式のファイルサイズは、非圧縮ファイルであるRGB TIFF形式の約1/4**と、大変コンパクトです。

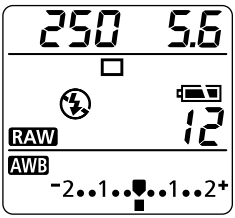
RGB TIFF形式など一般の非圧縮ファイルの場合、カメラ内で画像処理をしており、さらに画質を調整するには、レタッチソフトウェアでの処理が必要ですが、その際、画質が劣化してしまいます。しかしＲＡＷ形式は、専用のソフトウェア* によりオリジナルの画像データ上で画質（ホワイトバランス、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）を調整できるため、高品位を保ったまま、お好みの画像を作り出すことができます。ＲＡＷ形式を選択すると、記録画素数や圧縮率は選択できません。記録画素数は、2272×1704に固定されます。

* RAW形式データで記録した画像をコンピューターで開いたり、画質を調整するには、同梱のソフトウェアを使います。詳しくは、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

** 当社測定条件によります。



記録可能画像数



1 モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**、**M**のいずれかにする

2 [（撮影）] メニューから [記録形式] を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた →p.39

3 [RAW] を選び、MENUボタンを押す

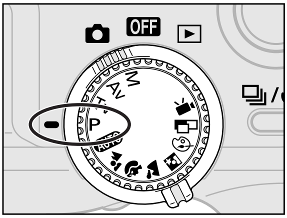
- 表示パネルにRAWが表示されます。

4 撮影する

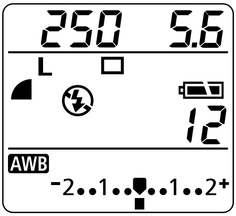
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ設定できます。

P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、カメラのシャッター速度と絞り数値を自動設定します。



1 モードダイヤルを P にする



2 撮影する

- シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点灯しているときは、適正露出です。

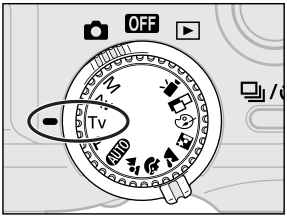
- 適正露出が得られない場合、表示パネルの数値が点滅し、液晶モニターには赤字で表示されますが、次の方法で撮影すると、点灯、白字で表示されます。
  ・ストロボを使用する
  ・ISO感度を変更する
  ・測光方式を変更する

PとAUTOの違い

- **P**とAUTOは、自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じです。
- **P**では、次の機能を使用できますが、AUTOではできません。
  ・露出補正　・ホワイトバランス　・AEB撮影　・ストロボ調光補正
  ・内蔵ストロボ（赤目緩和オン/オン）　・連続撮影　・記録形式の変更
  ・画質調整（ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さ）
  ・測光方式の変更　・マニュアルフォーカス
  ・AF枠の変更　・AEロック　・FEロック

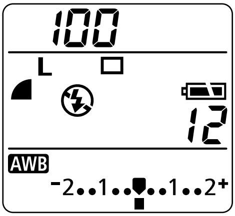
Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

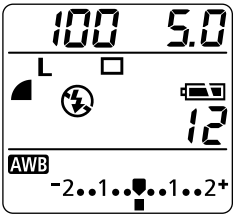


1 モードダイヤルを Tv にする

- シャッター速度が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

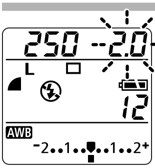


2 十字ボタンの◀▶でシャッター速度を選ぶ



3 撮影する

- シャッター速度と絞り数値が点灯しているときは、適正露出です。



● 絞り数値が点滅（表示パネル）、または赤字（液晶モニター）で表示されるときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過度）です。
点滅が止まるまで、または白字で表示されるまで、十字ボタンの◀▶でシャッター速度を調節してください。

● シャッター速度が遅くなると、CCDの特性により撮影した画像にノイズが増えますが、このカメラは、シャッター速度が1.3秒より遅くなると、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます。（ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります。）
● 1/1000秒のシャッター速度を設定した場合は、絞り数値は8.0に固定されます。

● シャッター速度が遅くなると、手ブレしやすくなります。液晶モニター中央に（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使用して撮影してください。

シャッター速度の表示

表示されたシャッター速度の1000から4までは、分数の分母を表します。例えば、160は1/160秒を表しています。また、0″3は0.3秒を、2″は2秒を表しています。

1000　800　640　500　400　320　250　200　160　125　100
80　60　50　40　30　25　20　15　13　10　8　6　5　4
0″3　0″4　0″5　0″6　0″8　1″　1″3　1″6　2″　2″5　3″2　4″
5″　6″　8″　10″　13″　15″

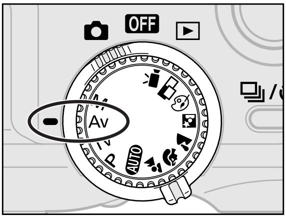
表示パネルと液晶モニターでは、1/4〜1/1000秒は、表示方法が異なります。

シャッター速度	1/1000秒・・・1/4秒・・・0.8秒・・・15秒
表示パネル	1000・・・4・・・0''8・・・15''
液晶モニター	1/1000・・・1/4・・・0″8・・・15″

Av 絞りを決めて撮る

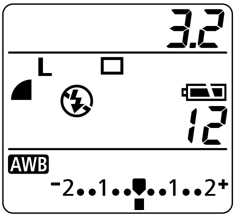
絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になるシャッター速度を自動的に設定します。

絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

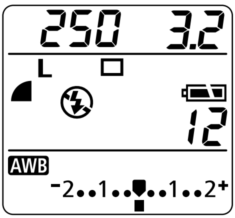


1 モードダイヤルを Av にする

- 絞り数値が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。

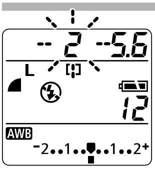


2 十字ボタンの◀▶で絞り数値を選ぶ



3 撮影する

- シャッター速度と絞り数値が点灯しているときは、適正露出です。



- シャッター速度が点滅（表示パネル）、または赤字（液晶モニター）で表示されるときは、露出アンダー（露出不足）または露出オーバー（露出過度）です。
点滅が止まるまで、または白字で表示されるまで、十字ボタンの◀ ▶で絞り数値を調節してください。

- ズームレバーをテレ端側に合わせているときは、F2.0、F2.2は選べません。

- 絞り数値を大きくすると、シャッター速度が遅くなり、手ブレしやすくなります。液晶モニター中央に（手ブレ警告）が表示されたら、三脚を使用して撮影してください。
- 絞り数値と最速のシャッター速度の関係は、以下のとおりです。

絞り数値	最速シャッター速度
F2.0～3.2	1/500
F3.5～4.5	1/640
F5.0～7.1	1/800
F8.0	1/1000

※ ストロボ発光時、最も遅いシャッター速度は、1/60秒になります。

絞り数値の表示

表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。

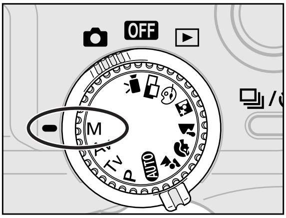
F2.0　F2.2　F2.5　F2.8　F3.2　F3.5　F4.0　F4.5　F5.0　F5.6
F6.3　F7.1　F8.0

表示パネルと液晶モニターでは、表示方法が異なります。

絞り数値	F2.0 ・・・ F8.0
表示パネル	2.0 ・・・ 8.0
液晶モニター	F2.0 ・・・ F8.0

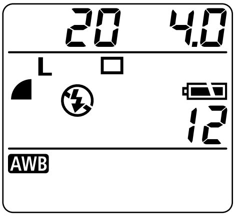
M 自由にシャッター速度/絞りを決めて撮る

シャッター速度や絞り数値を自分で決定し、狙い通りの撮影ができます。花火の撮影など露出の設定が難しいときに使うと便利です。



1 モードダイヤルを M にする

- シャッター速度と絞り数値が表示パネルに表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも表示されます。



2 十字ボタンの◀ ▶でシャッター速度を選ぶ

3 十字ボタンの ▲▼ で絞り数値を選ぶ

4 撮影する

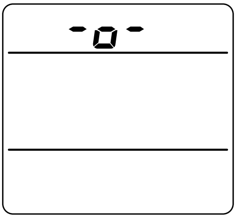
- シャッターボタンを半押しすると、表示パネルには露出補正バーが表示され、液晶モニターには標準露出*からのずれが表示されます。
  このずれが±2を超えると、液晶モニターと表示パネルへの表示は、以下のようになります。
  ・液晶モニター　：赤字で「-2」または「+2」と表示
  ・表示パネル　　：露出値を示す「■」が点滅
  ＊設定されている測光方式を元にAEを行って、標準露出を算出します。

- 露出補正、AEロック、FEロック、ストロボ調光補正、AEB撮影、ISO感度(AUTO)は設定できません。

- 1/1000秒のシャッター速度は、絞り数値8.0のときに設定できます。
- 露出を変更したい場合は、十字ボタンの ◀ ▶ でシャッター速度、▲▼ で絞り数値を変更してください。
- 速いシャッター速度を設定した場合や、被写体が暗い場合、ストロボを⚡ 👁 (赤目緩和オン)または⚡(オン)にするか、外付けストロボを取り付けると、液晶モニターは暗くならないため、撮影前に被写体を確認できます。

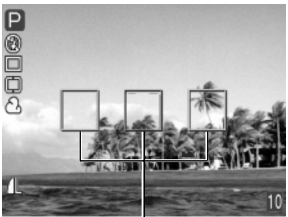
AF枠を選択する

AF枠は、ピントを合わせるための枠です。
３つのＡＦ枠から、任意の一点を選択できます。狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。



1 ボタンを押す

- 表示パネルに選択されているＡＦ枠が表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターには３つのAF枠が表示されます。



AF枠

2 十字ボタンの◀▶でAF枠を選ぶ

- 選択されたAF枠は緑色で表示されます。

3 ボタンを押す

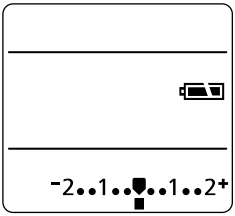
- ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して設定したAF枠で撮影することもできます。

4 撮影する

- **P**、**Tv**、**Av**、**M** のみ設定できます。電源を切ると設定は解除され、次に電源を入れたときは、中央のＡＦ枠が選択されています。これら以外の撮影モードでは、中央のAF枠でピント合わせが行われます。
- AF枠を設定した場合は、液晶モニターを消してもAF枠の設定は有効ですので、液晶モニターで撮影することをおすすめします。
- 測光方式が[スポット測光]のときは、AF枠をスポット測光枠と連動させることができます。➜p.77
- AF枠の色については、p.36をご覧ください。

露出を補正する

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまうようなときに露出を調整します。



1 /WB//ボタンを1回押す

- 表示パネルに露出補正バーが表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも露出補正バーが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶で露出を調整する

- 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。

3 SETボタンを押す

- SETボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定した露出補正値で撮影することもできます。
- 露出補正を解除するときは、◀▶ ボタンで補正量を▼に戻します。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再び露出補正バーが表示され、設定を変更できます。

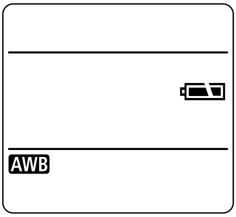
- 、Mでは設定できません。は、最初の1画像目のみ設定できます。

- 設定した補正値は、撮影モードによっては、電源を切っても解除されません。→p.84

WB ホワイトバランスを設定する

撮影時の光源に応じてホワイトバランスを設定すると、その光源に合った適正な色に調整できます。自然光や照明光で撮影するとき、撮影条件に応じてホワイトバランスを設定します。

AWB	オート	カメラが自動的にホワイトバランスを設定します。
☀	太陽光	晴天の屋外で撮影するときに設定します。
☁	くもり	曇天や日陰、薄暮などで撮影するときに設定します。
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯のもとで撮影するときに設定します。
WB	ストロボ	ストロボを使って撮影するときに設定します。
	マニュアル	白紙などを使って、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定します。



1 /WB//ボタンを2回押す

- 表示パネルにホワイトバランスモードが表示されます。液晶モニターがついている場合、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶でホワイトバランスを選ぶ

- （マニュアル）について➔p.70

3 SETボタンを押す

- **SET** ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定したホワイトバランスモードで撮影することもできます。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びホワイトバランス設定メニューが表示され、設定を変更できます。

- AUTO、（セピア、白黒）では設定できません。は、最初の1画像目のみ設定できます。

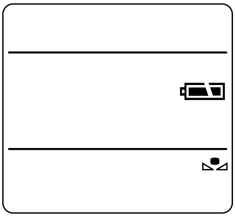
- 設定したホワイトバランスは、撮影モードによっては、電源を切っても解除されません。→p.84

マニュアルホワイトバランスを設定する

白い紙や布など、白の基準としたいものをカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定できます。

1 /WB//ボタンを2回押す

- 表示パネルにホワイトバランスモードが表示されます。液晶モニターがついている場合、ホワイトバランス設定メニューが表示されます。



2 十字ボタンの◀▶で を選ぶ



3 カメラを白い紙や布に向け、ボタンを押す

- 液晶モニターを使う場合は、中央の枠いっぱいに、またファインダーを使う場合は、画面いっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めてから、ボタンを押してください。ボタンを押すと、白データが取り込まれます。

4 SETボタンを押す

- **SET** ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、取り込んだ白データに基づいて設定されたホワイトバランスで撮影することもできます。

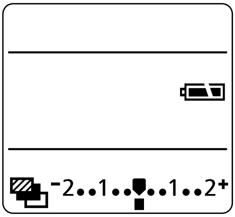
5 撮影する

- 手順4でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びホワイトバランス設定メニューが表示され、設定を変更できます。

- 撮影モードを**P**にし、露出補正、ストロボ調光補正をともに±0にすることをおすすめします。適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は、白データを正しく取り込めないことがあります。
- 液晶モニターを使い、ズームをテレ端の位置にすることをおすすめします。
- では、白データの取り込みはできませんので、あらかじめ、他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- ストロボが赤目緩和オート/オートでマニュアルホワイトバランスを設定する場合、白データの取り込みの際にストロボが発光したときは、撮影時もストロボを発光させてください。白データ取り込み時と撮影時のストロボ状態を合わせないと、最適なホワイトバランスが設定できないことがあります。ストロボ状態を合わせるために、ストロボをオンまたはオフに設定することをおすすめします。
- 設定したホワイトバランスは、電源を切っても解除されません。

露出を自動的に変えて撮る（AEB撮影）

設定した露出補正量の幅に従って、カメラが自動的に露出を変えながら3 画像撮影します。標準露出を中心に−2〜+2の範囲で1/3段ずつ補正量を設定できます。また露出補正(p.68)をしている場合は、その設定値を中心に補正量を設定できます。標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。



1 /WB//ボタンを3回押す

- 表示パネルにと露出補正バーが表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにも露出補正バーが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶で補正量を調整する

- 十字ボタンの▶を押すと間隔が広くなり、◀を押すと狭くなります。

3 SETボタンを押す

- **SET** ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定した露出の範囲で3 画像を撮影することもできます。
- AEB撮影を解除するときは、◀ボタンで補正量をに戻します。

4 撮影する

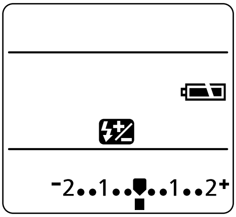
- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再びと露出補正バーが表示され、設定を変更できます。

- ストロボ発光時は、ＡＥＢ撮影はできません。内蔵、外付けストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。

- **P**、**Tv**、**Av**のみ設定できます。
- 設定した補正量は、電源を切っても解除されません。

ストロボの発光量を補正する（ストロボ調光補正）

ストロボを使って撮影するとき、発光量を調節できます。



1 /WB//ボタンを4回押す

- 表示パネルに とストロボ調光補正バーが表示されます。液晶モニターがついている場合、液晶モニターにもストロボ調光補正バーが表示されます。

2 十字ボタンの◀▶で発光量を調整する

- 補正量は、−2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。

3 SETボタンを押す

- **SET** ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定した補正量で撮影することができます。
- ストロボ調光補正を解除するときは、◀▶ ボタンで補正量をに戻します。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを押した場合は、撮影後に再び とストロボ調光補正バーが表示され、設定を変更できます。

- AUTO、、**M**では設定できません。では、1画像目のみ設定できます。

- **M** のときは、内蔵ストロボは自動調光せず、フル発光します。ただし、スピードライトE X シリーズ、およびマクロリングライトを使用している場合は、上記の操作で、ストロボの発光量を調節できます。
- 設定した調光補正は、撮影モードによっては、電源を切っても解除されません。➔p.84
- ストロボ調光補正は、内蔵ストロボ、スピードライトE X シリーズおよびマクロリングライト（p.120）を使用する場合にのみ機能します。

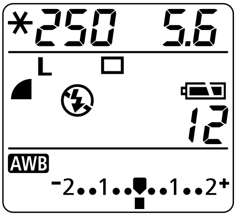
✱ 露出を固定して撮る（AEロック）

露出とピントを別々に決めて撮影することができます。被写体と背景のコントラストが極端に強いときや、逆光下での撮影などに有効です。
AF枠の選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果については、p.75をご覧ください。

1 DISPLAY ボタンを押して液晶モニターをつける

2 露出を固定したい被写体にピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



3 ✱ボタンを押す

- 露出が固定（ＡＥロック）され、表示パネルや液晶モニターに✱が表示されます。
- シャッターボタン、または十字ボタン以外のボタンを押すと、AEロックを解除できます。



AEロック



4 構図を決め直して、撮影する

- 光学ファインダーを使って撮影する場合、AEロックはできません。

- **P**、**Tv**、**Av**のみ設定できます。

自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせを、同じ露出のままで自由に変えて撮影することができます。次のように操作します。

1. モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**のいずれかにする
2. DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける
3. 露出を固定したい被写体にピントを合わせる
   シャッターボタンを半押しします。
4. ✱ボタンを押す
   露出が固定され、表示パネルと液晶モニターに✱が表示されます。
5. 十字ボタンの◀▶で、希望するシャッター速度または絞り数値になるまで変える
6. 構図を決め直して、撮影する
   撮影が終了し、設定は解除されます。

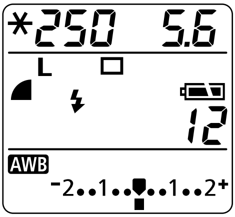
AF枠の選択と測光方式の組み合わせによるAE/FEロックの効果

（撮影モードがクリエイティブゾーンのとき）

測光方式		AF枠選択時
評価測光		選択しているAF枠を中心にした露出値でAE/FEロックする
中央部重点平均		中央のAF枠を中心にした露出値でAE/FEロックする
スポット測光	中央固定	中央のスポット測光枠内の露出値でAE/FEロックする
	AF枠連動	選択しているAF枠に連動したスポット測光枠内の露出値でAE/FEロックする

✱ FEロックして撮る（FEロック）

被写体の任意の部分に適正調光させたストロボ撮影ができます。
AF枠の選択と測光方式の組み合わせによるFEロックの効果については、p.75をご覧ください。





1 DISPLAY ボタンを押して液晶モニターをつける

2 内蔵ストロボを設定する

- 外付けストロボをお使いの場合は、お使いのストロボの取扱説明書をご覧ください。

3 露出を固定したい被写体にピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

4 ✱ボタンを押す

- 露出が固定（FEロック）され、表示パネルや液晶モニターに✱が表示されます。
- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- ✱ ボタンを押すたびにプリ発光し、そのとき必要な露光量をFEロックします。
- シャッターボタン、または十字ボタン以外のボタンを押すと、FEロックを解除できます。

5 構図を決め直して、撮影する

- 被写体のある部分をねらってＦＥロックを行い、左の構図にすると、背景の反射光の影響を受けることなく、被写体が適正露出になります。

- **P**、**Tv**、**Av**のみ設定できます。
- FEロックは、内蔵ストロボ、スピードライトEXシリーズおよびマクロリングライト（p.120）を使用する場合にのみ機能します。

測光方式を切り換えて撮る

測光方式を切り換えて撮影できます。通常は、[評価測光]に設定されています。

測光方式	(評価測光)	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。画面内の被写体の位置、明るさ、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。
	(中央部重点平均)	画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
スポット測光	中央固定	液晶モニター中央部の「スポット測光枠」内を測光します。逆光などで被写体の周囲に強い光があるときに利用します。
	AF枠連動	選択しているAF枠内に連動した「スポット測光枠」内を測光します。

[測光方式] を設定する



1 モードダイヤルをP、Tv、Av、Mのいずれかにする

2 [(撮影)]メニューから[測光方式]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた →p.39

3 [(評価測光)]または[(中央部重点平均)]を選ぶ

- [評価測光]のときは、[中央部重点平均]のときはが液晶モニターに表示されます。

4 MENUボタンを押す

- 測光方式が設定されます。シャッターボタンを押して撮影します。

[スポット測光枠] を設定する

1 モードダイヤルをP 、Tv 、Av 、M のいずれかにする



2 [(撮影)]メニューから[スポット測光枠]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39

3 [中央固定]または[AF枠連動]を選ぶ

4 MENUボタンを押す

- スポット測光枠が設定されます。 ボタンを押して撮影してください。

スポット測光に切り換える

1 モードダイヤルをP 、Tv 、Av 、M のいずれかにする



2 ボタンを押す

- ボタンを押すごとに、メニューで選択した[測光方式]と[スポット測光]が切り換わります。
- [スポット測光]のときは、表示パネルに が表示されます。[中央固定]の場合は、液晶モニター中央にスポット測光枠が表示され、[AF枠連動]の場合は、選択されているAF枠の内側にスポット測光枠が表示されます。

3 撮影する

- **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ設定できます。
- 電源を切ると、設定は解除されますが、メニューで設定した測光方式は保持されます。
- [測光方式]で設定されている内容は、液晶モニターで確認してください。

ピントが合いにくい被写体を撮る

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。
・コントラストが極端に低い被写体
・近いものと遠いものが混在する被写体
・画像中央部が極端に明るい被写体
・高速で移動する被写体
これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロック撮影するか、マニュアルフォーカスで撮影してください。

- ガラス越しの被写体は、できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。

フォーカスロックで撮る

フォーカスロック撮影・方法1

1 **ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、ファインダー中央、またはAF枠が選択されている場合は、そのAF枠に合わせる**

2 **シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる**

- このときＡＥロックされます。撮影したい被写体と、その被写体と同じ距離にあるフォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合は、方法2で撮影するか、またはAEロックで撮影してください。

3 **そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する**

フォーカスロック撮影・方法2

1 **DISPLAYボタンを押して液晶モニターをつける**

2 **ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、液晶モニターの中央、またはAF枠が選択されている場合は、そのAF枠に合わせる**

3 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせ、そのままMF ボタンを押す

- 表示パネルにMF、液晶モニターにMFが表示されます。
- シャッターボタン、MFボタンを離しても、フォーカスは固定されています。
- 再度MFボタンを押すと、フォーカスロックは解除されます。

4 カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

- 方法2は、シャッターボタンを離して構図を決められるので便利です。

マニュアルフォーカスで撮る

手動でピントを合わせて撮影します。

1 DISPLAY ボタンを押して液晶モニターをつける

MFインジケーター



2 MF ボタンを押しながら、十字ボタンの▲▼を押す

- フォーカスがロックされ、表示パネルにMF、液晶モニターにMF とM F インジケーターが表示されます。AF枠が選択されている場合は、そのAF枠を中心に拡大表示*されます。
  ＊ 、 、デジタルズーム、テレビに表示しているときは、拡大表示されません。
- MFインジケーターは、ピント位置の目安です。表示される数値を目安に撮影してください。
- 液晶モニター内の被写体がはっきり見えるまで、十字ボタンの ▲▼ を押してピントを合わせてください。
- 再度MF ボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。

3 撮影する

- AUTO、 では設定できません。

- マニュアルフォーカス時は、マクロモードの撮影範囲（6cm（ワイド端）/20cm（テレ端）～70cm）もフォーカスできます。MFインジケーターの単位は細かくなります。

フォーカス設定を切り換えて撮る

フォーカス設定を切り換えて撮影できます。

CONT（コンティニュアス）	シャッターボタンが押されていなくても、カメラを向けた位置によって常にピント合わせを行っているため、シャッターチャンスを逃がさずに撮影できます。初期状態は、こちらが選択されています。
SINGLE（シングル）	シャッターボタンを半押ししたときのみ、ピント合わせを行います。通常はピント合わせを行わないため、消費電力をおさえることができます。



1 [(撮影)]メニューから[AFモード]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた →p.39

2 [CONT]または[SINGLE]を選び、MENUボタンを押す

3 撮影する

- では設定できません。
- 液晶モニターが非表示の場合は、SINGLE（シングル）に固定されます。

- 設定は、カメラの電源を切っても解除されません。

好みの画質で撮る

ISO感度、コントラスト、シャープネス、色の濃さの設定を変えて撮影できます。

1 [(撮影)]メニューから設定項目を選ぶ

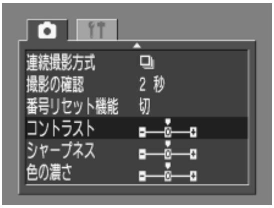
- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39

2 設定値を選び、MENUボタンを押す



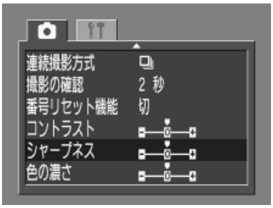
ISO感度

- 暗いときやシャッター速度を速くしたいときに切り換えます。50*、100、200、400、AUTOから選びます（＊は初期状態）。
- ＩＳＯ感度を上げると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選択してください。



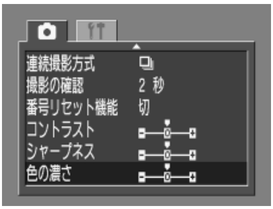
コントラスト

- −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。
- 明るさの度合を調整できます。



シャープネス

- −（弱め）、0（標準）、＋（強め）から選びます。
- 輪郭のくっきり度合を調整できます。



色の濃さ

- −（薄い）、0（標準）、＋（濃い）から選びます。
- 色の濃淡を調整できます。

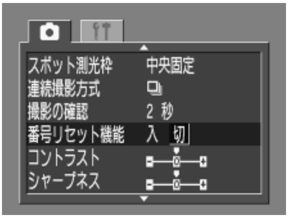
3 撮影する

- **P**、**Tv**、**Av**、**M**のみ設定できます。ただし**M**では、[ISO感度]を[AUTO]に設定できません。
- 設定は、カメラの電源を切っても解除されません。

ファイル番号をリセットする

ファイル番号の設定方法を選択します。

入	新しいCFカードを入れるたびに、ファイル番号が初期値（100-0001）に戻ります。記録済みのCFカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後に撮影した画像のファイル番号が記憶され、新しいCFカードを入れても続きのファイル番号になります。



1 [撮影アイコン（撮影）]メニューから[番号リセット機能]を選ぶ

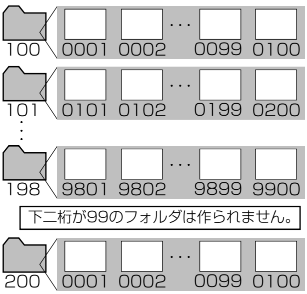
- メニューの選択と設定のしかた →p.39

2 [入]または[切]を選び、MENUボタンを押す

- 番号リセット機能を[切]にして撮影すると、ファイル番号が重複しないため、コンピューターでまとめて管理するような場合に便利です。

ファイル番号について

撮影した画像には、0001〜9900までのファイル番号が割り振られ、1つのフォルダに100画像ずつ保存されます。各フォルダには、100〜998までの番号が割り振られます。



連続撮影やスティッチアシストモードで撮影した画像は、必ず1つのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることもあります。

各撮影モードで設定できる機能

各撮影モードで設定できる機能は、以下のとおりです。

		AUTO								P	Tv	Av	M	参照先
ストロボ	オート	○	○*	○	○	○	○	–	–	○	–	–	–	p.44
	赤目緩和オート	○*	○	○*	○	○*	○*	–	–	○	–	–	–	
	赤目緩和オン	–	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	
	オン	–	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	オフ	○	○	○	○*	○	○	△*	○*	○*	○*	○*	○*	
マクロモード		○	–	○	–	–	○	○	○	○	○	○	○	p.53
撮影方法	シングル撮影	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	–
	連続撮影	–	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	p.55
	セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	p.54
AF枠の選択		–(1)	–(1)	–(1)	–(1)	–(1)	–(1)	–(1)	–(1)	○	○	○	○	p.67
露出補正		–	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	–	p.68
ホワイトバランス		–	○	○	○	○	○(2)	△	○	○	○	○	○	p.69
AEB撮影		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	p.72
ストロボ調光補正		–	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	–(3)	p.73
AEロック/FEロック撮影		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	p.74/76
スポット測光		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	p.77
測光方式		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	p.77
スポット測光枠		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	p.78
マニュアルフォーカス		–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	p.80
記録画素数	ラージ	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	p.58
	ミドル1	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	ミドル2	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	スモール	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	
	動画（320/160）	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–	–	–	
圧縮率	スーパーファイン	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	p.58
	ファイン	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	–	○*	○*	○*	○*	
	ノーマル	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	
記録形式	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	–	○*	○*	○*	○*	–
	RAW	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	p.60
ISO感度		–(4)	–(4)	–(4)	–(4)	–(4)	–(4)	–(4)	–(4)	○	○	○	○(5)	p.82
デジタルズーム機能		○	–	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	p.57
フォーカス設定	CONT	○*	–	○*	○*	○*	○*	○*	○	○*	○*	○*	○*	p.81
	SINGLE	○	–	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	
コントラスト/シャープネス/色の濃さ		–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	p.82

＊：初期状態　○：設定可　△：最初の1画像のみ設定可　－：設定不可

（網掛け）：電源を切っても解除されません。

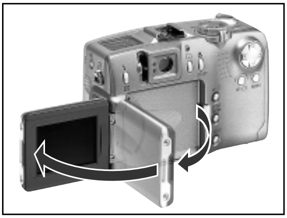
(1)中央のAF枠に固定されます。　(2)［セピア］、［白黒］は設定できません。

(3)p.73をご覧ください。　(4)ISO50～100相当で自動設定　(5)［AUTO］は設定できません。

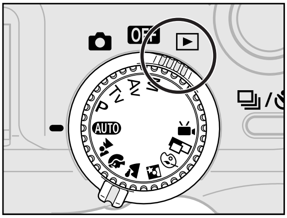
再生

1画像ずつ見る（シングル再生）

撮影した画像を液晶モニターに表示します。



1 液晶モニターを開く
- 液晶モニターの向きは、自由に調整できます。➔p.31



2 メインダイヤルを ▶ にする
- 最後に撮影した画像が表示されます。（シングル再生）



3 十字ボタンの◀ ▶で表示画像を切り換える
- 十字ボタンの◀ で前の画像、▶ で次の画像を表示します。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。

- DISPLAYボタンを押すと、表示している画像の情報が表示されます。➔p.34
- 🗑ボタンを押すと、表示している画像を消去できます。➔p.9
- SET ボタンを押しながらJUMP ボタンを押すと、液晶モニターに表示する言語を変更できます。（ただし、カードフォトプリンター CP-10（別売）接続時は設定できません。）➔p.27

🔍 拡大して見る

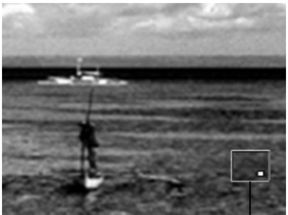
シングル再生時、表示している画像を約3倍/約6倍に拡大表示します。

1 メインダイヤルを ▶ にする

2 ズームレバーを 🔍側に押す



約3倍に拡大　表示位置の目安



約6倍に拡大　表示位置の目安

- ズームレバーを 🔍側に押すたびに、約3倍、約6倍に拡大して表示します。
- 十字ボタンの▲▼ または◀ ▶ で表示位置を変更できます。

3 ズームレバーを 🔍 側に押す

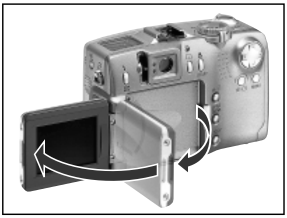
- 約6 倍に拡大表示しているときにズームレバーを 🔍 側に押すと、約3 倍に戻ります。再度押すとシングル再生に戻ります。

- 動画、インデックス再生時は拡大表示できません。

- 撮影直後に液晶モニターに表示される画像も、拡大して見ることができます。

9画像ずつまとめて見る（インデックス再生）

撮影した画像を、9画像ずつまとめて表示します。



1 液晶モニターを開く

- 液晶モニターの向きは、自由に調整できます。➜p.31

2 メインダイヤルを ▶ にする



3 ボタンを押す

- 9 画像ずつまとめて表示されます。（インデックス再生）

4 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で選択画像を切り換える



5 ボタンを押す

- インデックス再生を終了し、シングル再生に戻ります。

- DISPLAYボタンを押すと、選択されている画像の情報が表示されます。➜p.34

JUMP 9画像ずつ表示を切り換える

シングル再生またはインデックス再生時、9画像ずつ表示を切り換えます。

1 メインダイヤルを ▶ にして、シングル再生またはインデックス再生にする

2 JUMPボタンを押す

- ジャンプバーが表示されます。

3 画像を切り換える



ジャンプバー

シングル再生のとき

- 十字ボタンの◀▶で、前または次の10画像目を表示します。
- **SET** ボタンを押しながら十字ボタンの◀▶を押すと、最初または最後の画像を表示します。



ジャンプバー

インデックス再生のとき

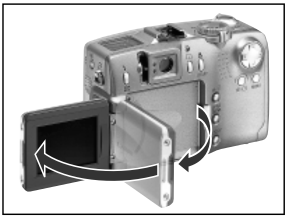
- 十字ボタンの◀▶で、前または次の9画像を表示します。
- **SET** ボタンを押しながら十字ボタンの◀▶を押すと、最初または最後の9画像を表示します。

4 JUMPボタンを押す

- ジャンプバーが消え、シングル再生、またはインデックス再生に戻ります。

動画を見る

でで撮影した動画を再生します。



1 液晶モニターを開く

- 液晶モニターの向きは、自由に調整できます。➜p.31

2 メインダイヤルを ▶ にする

- インデックス再生のときは、動画は再生されません。

動画



3 十字ボタンの◀▶で（動画）で撮影した画像を表示する

4 SETボタンを押す

- 動画と音声が再生されます。
- 再生を終了すると、最後のフレームを表示したままで停止します。その状態で、再び**SET** ボタンを押すと、最初のフレームから再生されます。

再生の一時停止/再開

- **SET**ボタンを押すと再生を一時停止します。
  再度**SET**ボタンを押すと、再生を続けます。

画像送り/戻し

- 十字ボタンの ◀▶ を押すと、再生を中断し、前または次の画像を表示します。

- コンピューターで動画を再生するとき、コンピューターの性能によっては、画像がコマ落ちしたり、音声が途切れる場合があります。

- 再生モード時、設定メニューで、動画の再生音量を調節できます。➜p.115
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。

回転して表示する

時計方向に90度、270度に回転して表示します。

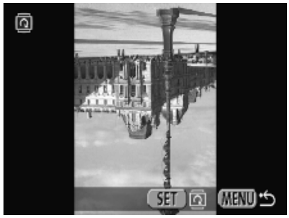
元画像

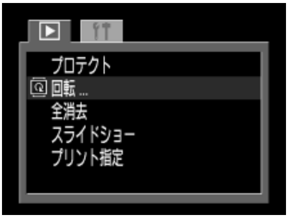


90度



270度





1 [▶ (再生)]メニューから[回転]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39



2 十字ボタンの◀▶で回転したい画像を選び、SETボタンを押す

- SETボタンを押すたびに、90度→270度→元画像を表示します。

3 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は回転表示できません。

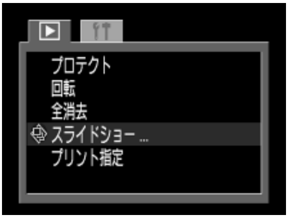
- カメラで回転した画像をコンピューターに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。
- 画像を回転したあとで、拡大することもできます。➔p.86

画像を自動再生する（スライドショー）

スライドショーを始める

全画像または選択した画像を自動再生します。

全画像	CFカード内のすべての画像を順に再生します。
ショー1～ショー3	各ショーでマークされている画像を順に再生します。 ➔p.92





1 [▶ (再生)]メニューから[スライドショー]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39
- スライドショーメニューが表示されます。

2 十字ボタンの▲▼ で[スライド]を選び、◀▶ で[全画像]、[ショー1]～[ショー3]のいずれかを選ぶ

3 十字ボタンの▲▼ で[スタート]を選び、SETボタンを押す

- スライドショーが開始され、再生後、自動的にスライドショーが終了します。

スライドショーの一時停止/再開

- SETボタンを押すと自動再生を一時停止します。再度SETボタンを押すと、再生を続けます。

画像送り/戻し

- 十字ボタンの◀▶で前または次の画像へ進めます。

スライドショーの中止

- 再生中にMENUボタンを押すとスライドショーが中止され、スライドショーメニューが表示されます。

4 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度MENUボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は、設定した再生間隔にかかわらず、記録した時間で再生されます。
- スライドショーで自動再生中は、節電機能は働きません➔p.30

再生する画像を選ぶ

スライドショーで再生したい画像だけをマークし、[ショー1]から[ショー3]に保存します。最大100画像まで指定でき、選択した順番に自動再生されます。



1 スライドショーメニューを表示する

2 十字ボタンの▲で[スライド]を選び、◀▶で[ショー1]～[ショー3]のいずれかを選ぶ

- すでに画像指定されているショーには、明るい緑色のアイコン(▬)が点灯しています。

3 十字ボタンの▼と◀▶で[画像指定]を選び、SETボタンを押す

4 再生する画像を選ぶ



シングル再生のとき

- 十字ボタンの◀▶で画像を選び、▲▼で選択または選択を解除できます。
- 選択した画像の上部には、選択順の番号と明るい緑色のアイコン(▬)が表示されます。



インデックス再生のとき

- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えます。
- 十字ボタンの◀▶で画像を選び、▲▼で選択または選択を解除できます。
- 選択した画像の下部には、選択順の番号と明るい緑色のアイコン(▬)が表示されます。
- SETボタンを押し、十字ボタンの◀▶で[OK]を選んだあとSETボタンを押すと、すべての選択を解除できます。

5 MENUボタンを押す

- 画像指定を終了します。

再生間隔やリピート設定をする

再生間隔やリピート設定をします。

再生間隔	スライドショーで1画像を表示する時間を指定します。3〜10秒、15秒、30秒、手動を指定できます。
リピート	スライドショーが一巡したら終了するか、繰り返し再生するかを設定します。

1 スライドショーメニューを表示する



2 十字ボタンの◀▶ で[設定]を選び、SET ボタンを押す

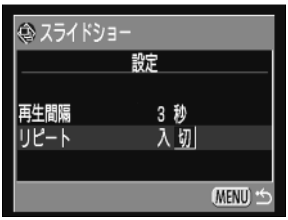
3 十字ボタンの▲▼ で[再生間隔]または[リピート]を選ぶ

4 十字ボタンの◀▶で設定する



再生間隔

- 再生時間を選びます。



リピート

- [入]または[切]を選びます。

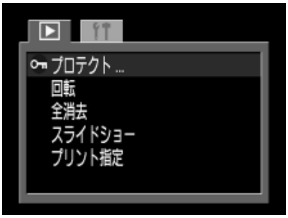
5 MENUボタンを押す

- 設定を終了します。

- 画像によっては、設定した時間と多少異なる再生間隔で再生されることがあります。
- 同梱されているソフトウェアを使用すると、スライドショーの編集が簡単に行えます。

画像を保護（プロテクト）する

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。



1 [▶（再生）]メニューから[プロテクト]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➜p.39



2 十字ボタンの◀▶でプロテクトしたい画像を選び、SETボタンを押す

- プロテクトを設定した画像には、🔑 が表示されます。
- プロテクトを設定した画像でSETボタンを押すと、プロテクトを解除します。
- ▦ボタンでシングル再生とインデックス再生を切り換えて指定できます。

3 MENUボタンを押す

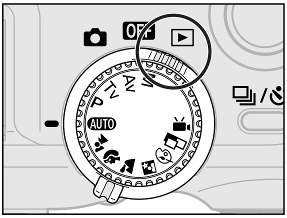
- 設定を終了します。

- CFカードを初期化(p.97)すると、プロテクトをかけた画像も消去されますので、CFカードを初期化するときは、CFカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

消去

1画像ずつ消去する

● 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。



1 メインダイヤルを ▶ にする

2 十字ボタンの◀▶で消去したい画像を選び、🗑ボタンを押す



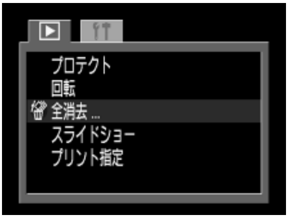
3 十字ボタンの◀▶ で[消去]を選び、SET ボタンを押す

● 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SET ボタンを押します。

● プロテクトされている画像は消去できません。➔p.94

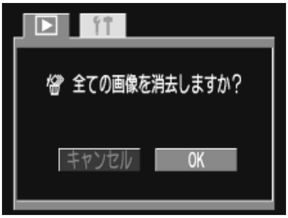
全画像を消去する

● 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。



1 [▶ (再生)] メニューから [全消去] を選んでSETボタンを押す

● メニューの選択と設定のしかた →p.39



2 十字ボタンの◀▶で [OK] を選び、SET ボタンを押す

● 消去を取り消すときは、[キャンセル] を選び、SET ボタンを押します。

● プロテクトされている画像は消去できません。→p.94

CFカードを初期化する

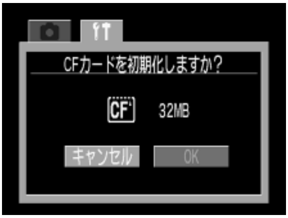
新しいCFカードをお使いになるときや、CFカード内の画像だけでなく、他のデータもすべて削除したいときは、CFカードを初期化します。CFカードにエラーがあり、表示パネルに「CF」と表示されたときにCFカードを初期化すると、再びお使いいただけることがあります。

- CFカードを初期化すると、CFカードの記録内容はすべて消去されます。プロテクト(p.94)をかけた画像も消去されますので、あらかじめ記録内容を十分に確認してから行ってください。



1 [(設定)]メニューから[CFの初期化]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39



2 十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押す

- 初期化を取り消すときは、[キャンセル]を選び、SETボタンを押します。

- キヤノン製以外のCFカードでも正しく動作しないときは、初期化するとお使いになれることがあります。
- 他のカメラやコンピューター、周辺機器で初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。

プリントの設定（DPOF対応）

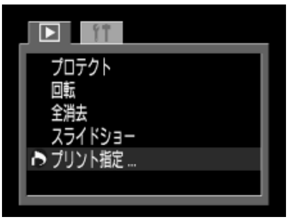
CFカードに記録されている画像の中から、プリントしたい画像や枚数を指定できます。また、プリントタイプの選択や、画像に日付、ファイル番号を付けたプリントの指定もできます。
この指定は、DPOF(Digital Print Order Format)に準拠していますので、DPOF対応のデジタルプリンターやラボプリントサービスでプリントを注文するときに便利です。

- DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたCFカードの場合、⚠が表示されます。このカメラでそれらのプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはラボプリントサービスによっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画、記録形式がRAWの画像は、プリント指定できません。

- DPOFの設定後、カードフォトプリンター CP-10（別売）と接続して、直接プリントできます。→p.109

プリントする画像を選ぶ

画像の指定には、次の2つの方法があります。
・1画像ずつ指定する
・CFカード内のすべての画像を指定する（プリント枚数は各画像につき１枚です。）



1 [▶ (再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた →p.39
- プリント指定メニューが表示されます。



2 十字ボタンの◀▶ で[画像指定]を選び、SETボタンを押す

3 プリントする画像を選ぶ



1画像ずつ指定するとき

- プリントタイプ(p.100)が[スタンダード]/[両方]の場合、十字ボタンの◀▶で画像を選びます。▲▼でプリント枚数が指定できます。(最大99枚まで)



- プリントタイプ(p.100)が[インデックス]の場合、◀▶で画像を選び、▲▼で指定または指定を解除できます。指定されたときは、チェックマークが表示されます。
- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます。



CFカード内のすべての画像を指定するとき

- ボタンを押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えます。
- **SET** ボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[全画像指定]を選び、再度**SET**ボタンを押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定されます。
- プリントタイプが[スタンダード]/[両方]の場合、各画像のプリント枚数を変更できます。[インデックス]の場合は、プリント指定の解除ができます。変更方法は、手順3のはじめからもう一度ご覧ください。
- [全指定解除]を選ぶと、すべての指定を解除できます。

4 MENUボタンを押す

- プリント指定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

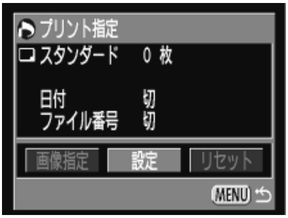
- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで指定できます。
- [両方]の場合、プリント枚数は指定できますが、インデックスは指定できません。インデックスは1枚のみプリントされます。
- 同梱されているソフトウェアでもプリント指定ができます。

プリントスタイルを指定する

次のプリントスタイルを指定できます。

プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	インデックス形式で画像を縮小してプリントします。
	両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
ファイル番号		ファイル番号を入れてプリントします。

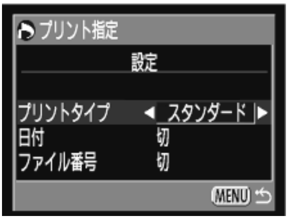
1 プリント指定メニューを表示する➔p.98



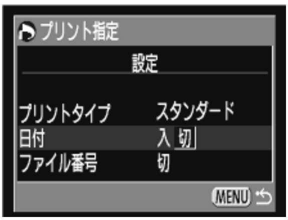
2 十字ボタンの◀▶で[設定]を選び、SETボタンを押す

3 十字ボタンの▲▼で[プリントタイプ]、[日付]、[ファイル番号]のいずれかを選ぶ

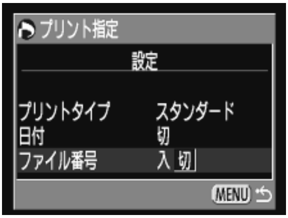
4 十字ボタンの◀▶で設定する



プリントタイプ
- [スタンダード]、[インデックス]、[両方]のいずれかを選びます。



日付
- [入]または[切]を選びます。



ファイル番号

- [入]または[切]を選びます。

5 MENUボタンを押す

- 設定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

- プリントタイプが[インデックス]の場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に指定することはできません。
- プリントタイプが[両方]の場合、カメラ上では[日付]、[ファイル番号]ともに[入]の設定ができます。ただし、この場合、[インデックス]プリントには、[ファイル番号]のみプリントされます。

- 日付は、[日付/時刻]で設定した日付スタイルでプリントされます。→p.26

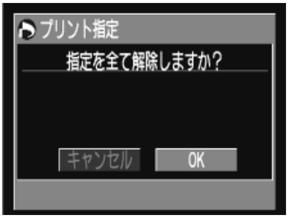
プリントの設定をリセットする

プリント指定された画像をすべて解除し、プリントタイプを［スタンダード］、日付を［切］、ファイル番号を［切］に戻します。

1 プリント指定メニューを表示する➜p.98



2 十字ボタンの◀▶で［リセット］を選び、SETボタンを押す



3 十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SETボタンを押す

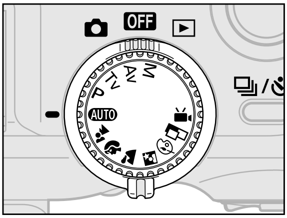
カメラダイレクト対応プリンター（別売）でプリント

カメラダイレクト対応プリンター（別売）とカメラを接続して、撮影した画像を簡単にダイレクトプリントできます。また、DPOFのプリント設定でプリントできます。
このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップでご確認ください。

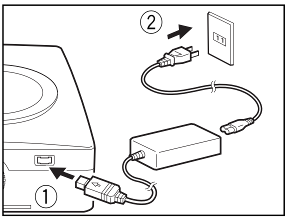
カメラダイレクト対応プリンターを接続する

プリンターには、ダイレクトインターフェースケーブルが2本同梱されています。このカメラと接続するときは、コネクターに「▶」マークがついているケーブル（DIF-200）をお使いください。

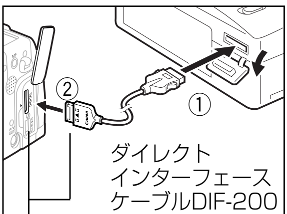
- カメラをプリンターに接続する場合、カメラの電源には、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。プリントする際は、バッテリーの残量にご注意ください。



1 カメラの電源を切る



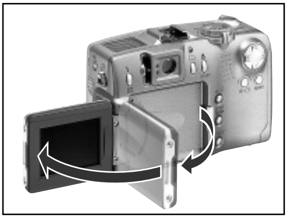
2 プリンターに電源ケーブルを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む



カメラとケーブルの▶マークが合うように差し込みます。

3 プリンターに、ダイレクトインターフェースケーブルを接続する

4 カメラの端子カバーを開き、ダイレクトインターフェースケーブルの端子を、DIGITAL端子に差し込む



5 液晶モニターを開く

プリンター接続時



6 プリンター接続後、メインダイヤルを▶にする

- プリンターが正しく接続されると、[プリンター接続アイコン] が表示されます。

- カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ずコネクターの「PUSH」ボタンを押しながら引いてください。

- ペーパーやインクカセットの取り付け方は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンター接続後に、[カメラアイコン] から▶ に切り換えた場合、レンズは収納されません。レンズを破損しないよう気をつけてください。レンズを収納する場合は、カメラからダイレクトインターフェースケーブルを取り外し、手順1からやり直してください。
- プリンターの接続時、次の操作はできません。
  - ·動画再生
  - ·SETボタン+JUMPボタンを使った言語の設定
- プリンターとの接続を解除すると、液晶モニター左上の[プリンター接続アイコン]が消え、通常の再生モードになります。

プリントする

シングル再生またはインデックス再生中の画像をプリントします。



1 十字ボタンの◀▶でプリントする画像を選び、SETボタンを押す



2 必要に応じてプリント枚数、プリントスタイル、トリミングの指定をする

- プリント枚数を指定する➜p.106
- プリントスタイルを指定する➜p.106
- 画像の一部分をプリント（トリミング）指定する➜p.107

3 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で［プリント］を選び、SETボタンを押す

- JUMPボタンでも［プリント］を選べます。
- プリントが開始され、正常に終了すると、再生画面に戻ります。

- 記録形式がRAWの画像や動画はプリントできません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSET ボタンを押します。確認の画面が表示されるので、十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SETボタンを押します。
- プリント中の画像のプリントは中止できません。次のプリントから中止され、再生画面に戻ります。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます。十字ボタンの◀▶で［中止］または［再開］を選び、SETボタンを押します。
- エラーの内容によっては、［再開］が表示されないこともあります。その場合は、［中止］を選びます。

プリント枚数を指定する



1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[枚]を選ぶ

2 十字ボタンの◀▶で枚数を指定する

- 1～99枚まで指定できます。

プリントスタイルを指定する

次のスタイルを指定できます。

画面設定	1画面	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	分割画面*	ペーパー1枚に同一の画像を8画面プリントします。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。

*カードサイズのペーパーにプリントするときのみ設定できます。



1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[スタイル]を選び、SETボタンを押す

2 十字ボタンの▲▼で[画面設定]、[フチ]、[日付]のいずれかを選ぶ



3 十字ボタンの◀▶で設定する

画面設定

- [1画面]または[分割画面]を選びます。



フチ

- [フチあり]または[フチなし]を選びます。



日付

- [入]または[切]を選びます。



プリント範囲枠

4 MENUボタンを押して設定を終了する

- [フチなし]および[分割画面]でプリントする場合、撮影した（液晶モニターに表示される）画像の中央部が大きくプリントされます。
  そのため、プリントされる画像の上下、左右が多少カットされます。トリミングを設定していない場合は、プリント範囲枠が表示されるので、カットされる部分を確認できます。

- [画面設定]が[分割画面]の場合、日付とフチは設定できません。（日付[切]、[フチなし]でプリントされます。）
- [フチあり]は、撮影した画像とほぼ同じ領域でプリントされます。

画像の一部分をプリント（トリミング）指定する

プリントする範囲を指定できます。

■トリミングする前に

プリントスタイル（画面設定、フチ、日付など）を指定してください。➔p.106



1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼ で[トリミング]を選び、SET ボタンを押す

- トリミング枠が画面中央に表示されます。すでにトリミングが設定されている画像の場合は、設定されたトリミング枠が表示されます。



2 トリミングする

トリミング枠の大きさを変更する

- ズームレバーを側または側に押します。
- トリミング枠は、最小で表示画面のほぼ半分、最大で表示画面とほぼ同じ大きさまで変更できます。
- トリミング枠が最大のとき、さらにズームレバーを側に押すと、トリミングは解除されます。
- トリミングで画像を拡大プリントする場合、拡大率によっては、プリントが粗くなります。その場合は、トリミング枠が赤くなります。

トリミング枠の位置を指定する

- 十字ボタンの▲▼ または◀ ▶でトリミング枠を移動します。

トリミング枠を回転する

- DISPLAY ボタンを押すと、トリミング枠を回転し、縦横を変更できます。



トリミング枠

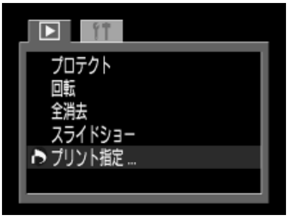
3 MENUボタンを押して設定を終了する

- トリミングは、1画像にのみ設定できます。
- トリミング設定は、以下の操作を行うと解除されます。
  ･他の画像にトリミング設定をする
  ･プリントモードを終了する（カメラの電源を切る、メインダイヤルを変更する、DIF-200ケーブルを取り外す）
  ･トリミング枠を最大よりも大きくする

- トリミング枠の形状は、画面設定、フチの設定で決まります。
- トリミングはカメラの液晶モニターで行ってください。テレビを使用すると、トリミング枠を正しく表示できないことがあります。

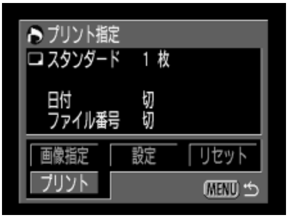
DPOFのプリント設定でプリントする

DPOFのプリント指定内容を、別売のカメラダイレクト対応プリンターでプリントできます。

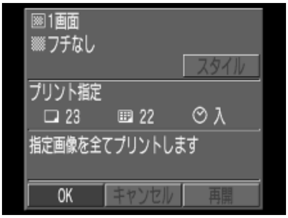


1 [▶(再生)]メニューから[プリント指定]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39
- プリント指定メニューが表示されます。

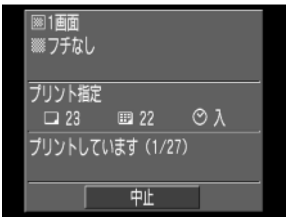


2 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で[プリント]を選び、SETボタンを押す



3 必要に応じてプリントスタイルを指定する

- プリントスタイルを指定する➔p.106
- DPOFのプリント指定で、プリントタイプに[インデックス]を選択している画像では、プリントスタイルは指定できません。



4 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で[OK]を選び、SETボタンを押す

- プリントが開始され、正常に終了すると、再生画面に戻ります。

- 日付をプリントする場合は、手順2 の[設定]で[日付]を[入]にします。手順3 の[スタイル]では、[日付]の設定はできません。なお、プリントタイプが[インデックス]の場合、手順2で[日付]を[入]に設定しても、日付はプリントされません。
- プリントタイプで[両方]を設定すると、カメラ上では、[日付]、[ファイル番号]ともに[入]の設定ができます。ただし、この場合、[インデックス]プリントには、ファイル番号のみプリントされます。
- プリントタイプが[スタンダード]の場合、ファイル番号を[入]にしてもファイル番号はプリントされません。

- プリントタイプが[インデックス]の場合、ペーパー1枚にプリントされる画像数は、ペーパーによって異なります。
  ・クレジットカードサイズ ： 20画像
  ・Lサイズ ： 42画像
  ・ポストカードサイズ ： 63画像

プリントを中止するとき

- プリント中にSET ボタンを押します。確認の画面が表示されるので、十字ボタンの◀ ▶で[OK]を選び、SETボタンを押します。
- プリント中の画像のプリントは中止できません。次のプリントから中止され、再生画面に戻ります。

プリントを再開するとき

- プリント指定メニューで、十字ボタンの◀ ▶で[再開]を選び、SETボタンを押します。残りの画像をプリントできます。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  ・再開する前に、プリント指定を変更した場合
  ・再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  ・プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
  このような場合は、プリント画面で[OK]を選択すると、1枚目から再プリントできます。
  バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。その上で、再度、カメラの電源を入れてください。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます。十字ボタンの◀ ▶で[中止]または[再開]を選び、SETボタンを押します。
- エラーの内容によっては、[再開]が表示されないこともあります。その場合は、[中止]を選びます。

メニュー機能一覧

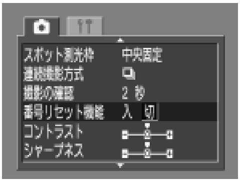
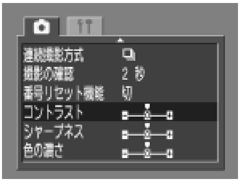
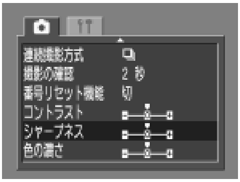
各メニューの設定項目や内容は、次のとおりです。操作方法については、「メニューの選択と設定のしかた(p.39)」をご覧ください。

撮影メニュー

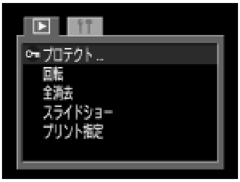
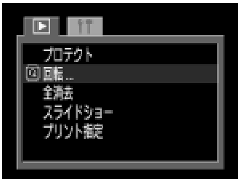
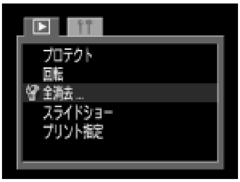
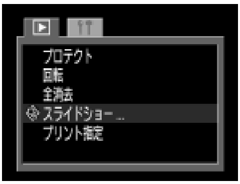
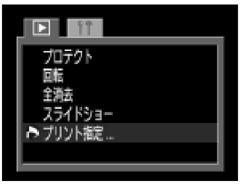
＊撮影モードによって表示されない項目もあります。➔p.84

項　目	画　面	内　容	参照先
記録画素数 （以外）		撮影した画像をCFカードに記録するときの記録画素数を設定します。 ・**L** ラージ（2272×1704画素） ・**M1** ミドル1（1600×1200画素） ・**M2** ミドル2（1024×768画素） ・**S** スモール（640×480画素）	p.58
記録画素数（）		撮影した画像をCFカードに記録するときの記録画素数を設定します。 ・320（320×240画素） ・160（160×120画素）	p.58
圧縮率		撮影した画像をCFカードに記録するときの圧縮率を設定します。 ・スーパーファイン ・ファイン ・ノーマル	p.58
記録形式		撮影した画像をCFカードに記録するときの記録形式を設定します。 ・JPEG ・RAW	p.60
ISO感度		撮影感度を設定します。 ・50 ・100 ・200 ・400 ・AUTO	p.82

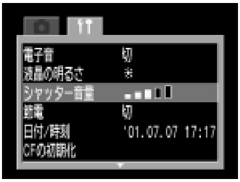
項　目	画　面	内　容	参照先
デジタルズーム		光学ズームと合わせて、最大約11倍に拡大します。 ・切 ・入	p.57
AFモード		撮影時のフォーカス動作を設定します。液晶モニターが非表示の場合は、SINGLEに固定されます。 ・CONT ・SINGLE	p.81
測光方式		測光方式を切り換えます。 ・◉（評価測光） ・□（中央部重点平均測光）	p.77
スポット測光		測光方式がスポット測光のとき、どの位置を測光するかを設定します。 ・中央固定 ・AF枠連動	p.77
連続撮影方式		連続撮影の方式を設定します。 ・ ・	p.55
撮影の確認		撮影してシャッターボタンを離したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 ・切 ・2秒 ・10秒	p.43

項　目	画　面	内　容	参照先
番号リセット機能		ファイル番号の付け方を設定します。 ・入 ・切	p.83
コントラスト		コントラストを設定します。 ・－ ・０ ・＋	p.82
シャープネス		シャープネスを設定します。 ・－ ・０ ・＋	p.82
色の濃さ		色の濃さを設定します。 ・－ ・０ ・＋	p.82

再生メニュー

項　目	画　面	内　容	参照先
プロテクト…		消去できないようプロテクトを設定します。	p.94
回転…		時計方向に90度、270度に回転して表示します。	p.90
全消去…		CFカードに記録されている画像をすべて消去します。（プロテクトされている画像を除く）	p.96
スライドショー…		記録した画像を自動再生します。	p.91
プリント指定…		画像をDPOF対応のプリンターまたはラボプリントサービスでプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	p.98

設定メニュー

項　目	画　面	内　容	参照先
電子音		シャッターボタンを半押ししたときや、メニュー操作をしたときに、電子音を鳴らすかどうかを設定します。 ・入 ・切 ただし、エラー時の警告音は［切］にしても鳴ります。	p.36
液晶の明るさ		液晶モニターの明るさを設定します。 ・（標準） ・（明るい）	－
シャッター音量 （撮影時）		シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。 動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。 ・□□□□□（切） ・■□□□□（1） ・■■□□□（2） ・■■■□□（3） ・■■■■□（4） ・■■■■■（5）	p.36
再生音量 （再生時）		動画再生時とカメラ起動時の音量を調節します。 ・□□□□□（切） ・■□□□□（1） ・■■□□□（2） ・■■■□□（3） ・■■■■□（4） ・■■■■■（5）	p.89
節電		一定時間カメラの操作をしないときに、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 ・入 ・切	p.30

項　目	画　面	内　容	参照先
日付/時刻...		日付、時刻、日付スタイルを設定します。	p.26
CFの初期化...		CFカードを初期化します。	p.97
言語.. .		液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 ・English　・Italiano ・Deutch　・Norsk ・Français　・Svenska ・Nederlands　・Español ・Dansk　・汉语 ・Suomi　・日本語 画像の再生時に、**SET** ボタンを押しながら **JUMP**ボタンを押しても、表示する言語を変更できます。	p.27
ビデオ出力方式		ビデオ出力方式を設定します。 . NTSC . PAL	–

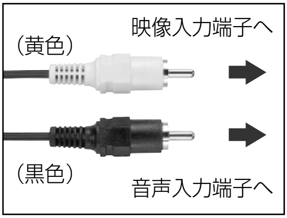
テレビを使って撮影/再生する

同梱のAVケーブル AVC-DC100を使用すると、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。

1 メインダイヤルを OFF にする



2 カメラのA/V OUT端子にAVケーブルを接続する



3 テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 メインダイヤルを📷または▶に合わせる

- 画像がテレビに表示されます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、DISPLAYボタンを押します。

- テレビ表示中は、液晶モニターに画像は表示されません。
- ビデオ出力方式は、初期状態では、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されていますが、海外の別方式（PAL方式：主にヨーロッパ、オセアニア、アジア（一部地域を除く））に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください。➔p.116
- AVケーブルをテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。
- ⧉では使用できません。

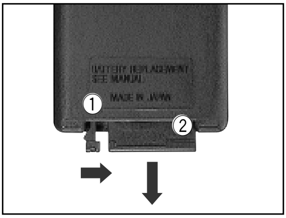
ワイヤレスコントローラーの使い方

電池を取り付ける

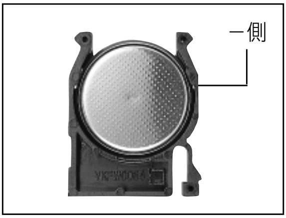
ご使用の前に、ワイヤレスコントローラーにコイン型リチウム電池（CR2025）を取り付けてください。

⚠

- コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。



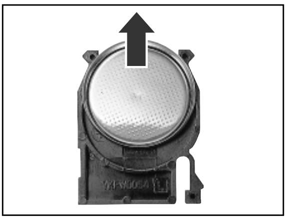
1 ①に爪をかけて矢印の方向に押しながら、②に爪をかけて電池ホルダーを取り出す



2 電池の（－）側を上にして、電池ホルダーに取り付ける

3 電池ホルダーを元に戻す

電池を取り出す



矢印の方向に引き抜くように取り出してください。

撮影/再生する



ワイヤレスコントローラーを使って、撮影や再生ができます。ワイヤレスリモコン受信部の正面から約5m離れて撮影や再生ができます。

（撮影）のとき

表示パネルにが表示されるまで/ボタンを押し、撮影します。



① ズームボタンで構図を決めます。

② シャッターボタンを押します。
2秒後に撮影されます。

- ボタンを押すたびに、液晶モニター表示（情報表示なし）/ 液晶モニター表示（情報表示あり）/ 液晶モニター非表示の切り換えができます。

（再生）のとき

表示パネルに が表示されます。



- 前の画像を表示します。
- 動画の再生をします。
- 次の画像を表示します。
- 拡大表示時、表示位置を切り換えます。
- インデックス再生時、選択画像を切り換えます。
- ボタンを押すたびに、情報表示を切り換えます。
- ボタンを押すたびに、約3 倍、約6 倍に拡大して表示します。
- 9画像ずつまとめて表示します。（インデックス再生）

- 以下の場合は、使用できる距離が短くなります。
  - ・ワイヤレスリモコン受信部に対して斜めに使用する場合
  - ・カメラに強い光が当たっている場合
  - ・電池が消耗している場合
- マクロリングライト MR-14EX装着時は、ワイヤレスリモコン受信部を覆ってしまうため、ワイヤレスリモコンが使えない場合があります。

外付けストロボ（別売）の使い方

別売の外付けストロボを取り付けると、より自然で鮮明なストロボ撮影ができます。
キヤノンスピードライト220EX、380EX、420EX、550EX、マクロリングライトMR-14EXを取り付けると（➔p.122）、自動調光で発光します。それ以外のストロボをお使いの場合、フル発光するか、または発光しない場合があります。
お使いのストロボの取扱説明書も併せてご覧ください。

＊スピードライト220EX、380EX、420EX、550EX、マクロリングライト MR-14EXの取扱説明書に記載されている撮影機能の一部は、このカメラに取り付けたときに、お使いいただけません。このカメラでお使いになる場合は、最初に本書をお読みください。



スピードライト420EX装着時

1 カメラ上部のアクセサリーシューに取り付ける

2 外付けストロボの電源を入れ、メインダイヤルを にする

3 モードダイヤルを 、 以外の任意のモードにする

スピードライト220EX、380EX、420EX、550EX、マクロリングライト MR-14EXをお使いの場合

- AUTO、 、 、 、 、 、**P**、**Tv**、**Av** のときは自動調光で発光します。ストロボ同調最高シャッター速度は1/250秒です。
- **M** のときのストロボ同調最高シャッター速度は、1/250秒です。絞り数値は、ストロボのガイドナンバーと被写体との距離から最適値を設定してください。ストロボのガイドナンバーは、カメラのＩＳＯ感度で変わりますので、ISO感度をご確認ください。
- **M** のときは、カメラのストロボ調光補正画面で（p.73）、外付けストロボの発光量を調節できます。スピードライト 550EX、またはマクロリングライト MR-14EXを取り付けているときは、ストロボ側とカメラ側の両方で調節できます。ストロボ側で調節するときは、ストロボをマニュアル発光モードにすることをおすすめします。なお、E-TTL自動調光モードでも、調光補正値を変更すると発光量を変更できます。このとき、+2段がフル発光の値になります。

撮影するときのホワイトバランスは、⚡WB（ストロボ）に設定することをおすすめします。

他のキヤノン製ストロボをお使いの場合

- フル発光しますので、シャッター速度と絞り数値を適切に設定してください。
  シャッター速度は1/125秒（ストロボ同調最高シャッター速度）以下に設定し、絞り数値は、ストロボのガイドナンバーと被写体との距離から最適値を設定してください。
  なお、ホワイトバランスは、⚡WB （ストロボ）に設定することをおすすめします。

4 シャッターボタンを半押しする

- ストロボのパイロットランプが点灯すると、充電が完了です。

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

- 、、連続撮影では、ストロボは発光しません。
- ストロボ発光時は、AEB撮影はできません。ストロボを発光して撮影した場合は、通常の1画像撮影になります。
- 他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にアクセサリーシューに複数の接点を持つ）、高圧タイプのストロボおよびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

- スピードライト220EX、380EX、420EX、550EXで使用できる機能は、次のとおりです。
  ・自動調光（550EXは、E-TTLモードでお使いください。）
  ・FEロック機能（**M**では使用できません。）
  ・日中シンクロ機能
  ・スローシンクロ機能
  ・ストロボ調光補正（550EXをお使いの場合に、カメラ側と550EX側（E-TTLモード時）の両方で調光補正を行った場合は、550EX側の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。）
  ・オートズーム機能（220EXではお使いになれません。）

マクロリングライト MR-14EXの取り付け方

マクロリングライト MR-14EXを取り付ける場合、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58とマクロライトアダプター 58Cが必要です。



1 レンズ周りのリングを外す



2 コンバージョンレンズアダプター LA-DC58を矢印の方向に回して取り付ける

- クローズアップレンズ 250D（p.124）を取り付ける場合は、この後に取り付けます。



3 マクロライトアダプター 58Cを矢印の方向に回して取り付ける



4 カメラ上部のアクセサリーシューに制御部を取り付ける



5 発光部の両側にある着脱ボタンを押しながら、マクロライトアダプター 58Cに取り付ける

6 🌷ボタンを押す

- マクロモードで撮影するときは、被写体から20cm以上離れてください。これより近距離の場合は、**Av**または**M**で、絞りを絞って撮影してください。
- マクロリングライト MR-14EXをお使いになる場合、カメラの撮影モードを**P**、**Av**、**Tv**にするだけで、E-TTL自動調光ストロボ撮影を行うことができます。本格的なマクロストロボ撮影を行うときは、**Av**の撮影モードをおすすめします。**Tv**では、絞り数値を任意に設定できないためおすすめできません。
- マクロリングライト MR-14EXで使用できる機能は、次のとおりです。
  ·E-TTL自動調光機能
  ·FEロック機能
- カメラ側とマクロリングライト MR-14EX側の両方で調光補正を行った場合は、マクロリングライト側(E-TTLモード時)の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。

コンバージョンレンズ（別売）/ クローズアップレンズ（別売）の使い方

別売のワイドコンバーター WC-DC58、テレコンバーター TC-DC58、クローズアップレンズ 250D（58mm）を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプター LA-DC58が必要です。

- コンバージョンレンズ* / クローズアップレンズを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- コンバージョンレンズ/ クローズアップレンズは、絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。失明の恐れがあります。

＊コンバージョンレンズとは、ワイドコンバーターとテレコンバーターを指します。

ワイドコンバーター WC-DC58



58mmのねじ径を持つ広角撮影をするための倍率変換レンズです。焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の0.8倍になります。

テレコンバーター TC-DC58



58mmのねじ径を持つ望遠撮影をするための倍率変換レンズです。焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の1.5倍になります。

- コンバージョンレンズを取り付けて、外付けストロボを使用した場合、正しく自動調光されないことがあります。
- コンバージョンレンズにフィルターやレンズフードは取り付けられません。
- 内蔵ストロボを使用すると、画面が欠け（ケラレ）て、画像の一部が暗くなります。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け（ケラレ）て見えます。
- ワイドコンバーターは、ワイド端の位置でお使いください。
- テレコンバーターは、テレ端の位置でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像がケラレることがあります。

クローズアップレンズ 250D（58mm）



５８ｍｍのねじ径を持つ、簡単にマクロ撮影をするためのレンズです。マクロモードで、レンズ前面から被写体までの距離が12～20cmの至近距離撮影ができます。

- クローズアップレンズを取り付けてストロボ撮影するときは、マクロリングライト MR-14EXをお使いになることをおすすめします。
- クローズアップレンズは、画角をテレ端の位置にしてお使いください。

レンズを取り付ける



1 レンズ周りのリングを外す



2 コンバージョンレンズアダプター LA-DC58を矢印の方向に回して取り付ける



ワイドコンバーター
WC-DC58装着時

3 レンズを矢印の方向に回して取り付ける

- レンズを取り付けても、ファインダーの画角は変わりませんので、撮影するときは液晶モニターをお使いください。
- レンズを取り付けて で撮影しても、コンピューターで「PhotoStitch」を使った合成は正しく行えません。
- レンズの保護のため、レンズを片手で固定しながら着脱してください。
- ご使用前には、レンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには、指紋がつきやすいのでご注意ください。

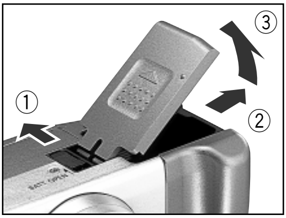
付録

コイン型リチウム電池の交換

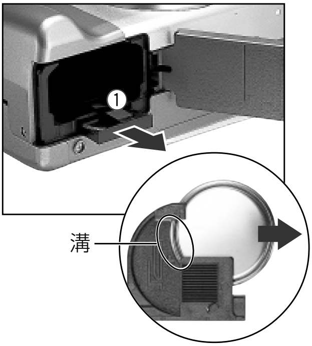
カメラの電源を入れたとき、日付/時刻の設定メニューが表示された場合は、コイン型リチウム電池の残量が低下し、日付の設定が消えています。市販のコイン型リチウム電池(CR2016)をお求めのうえ、次の手順で交換してください。

最初の電池は工場出荷時に組み込まれていますので、ご購入後の電池の寿命は短い場合があります。

- コイン型リチウム電池は、お子様の手の届かないところに置いてください。万一飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が侵される恐れがありますので、直ちに医師に相談してください。

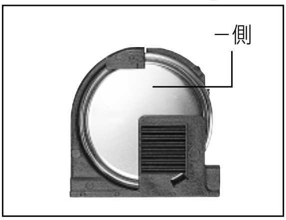


1 メインダイヤルを OFF にして、バッテリーカバー開放スイッチを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーカバーを開く



2 バッテリーを取り出して、バッテリー室内の①を指で押しながら、矢印の方向に引き、電池ホルダーを取り出す

3 電池の溝に爪をかけて、矢印の方向に押し出す



4 新しい電池の(－)側を上にして、電池ホルダーに取り付ける

5 電池ホルダー、バッテリーを元に戻し、バッテリーカバーを閉じる

カメラのお手入れ

カメラやレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

カメラ	：やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払った後、やわらかい布で軽く拭き取ってください。 ● カメラやレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
ファインダー	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。
液晶モニター	：市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。 ● 絶対に液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因となります。

- 絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

故障かなと思ったら

現　象	原　因	対　処
カメラが動作しない	電源が入っていません。	●メインダイヤルを OFF 以外にしてください。
	バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーが開いています。	●バッテリーカバーがしっかりと閉じていることを確認してください。 ●CFカードスロットカバーをしっかり閉めてください。
	バッテリーの電圧が足りません。（表示パネルに「Lb」が点滅）	●バッテリーを十分に充電してカメラに入れてください。 ●家庭用電源を使用してください。
	カメラとバッテリーの接触不良です。	●バッテリーの電極を乾いたきれいな布で拭いてください。
撮影ができない	メインダイヤルを OFF 、▶（再生）に合わせています。	●メインダイヤルを 📷(撮影）にしてください。
	ストロボが充電中です。（橙色のインジケーター点滅）	●充電が完了すると、橙色のインジケーターが点灯します。シャッターボタンを押してください。
	CFカードの空き容量がありません。	●新しいCFカードを入れてください。 ●必要であれば、CFカードに記録されている画像をコンピューターに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
	CFカードが正しくフォーマットされていません。	●CFカードを初期化してください。 ➡「CFカードを初期化する（p.97）」参照 ●CFカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。キヤノンのお客様ご相談窓口にお問い合わせください。
レンズが出たままで収納されない	メインダイヤルを OFF にして、すぐにバッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを開けようとしました。	●バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを閉じた後、メインダイヤルを OFF にしてください。
	CFカードへの記録中に、バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを開けようとしました。（警告音が鳴ります。）	●バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを閉じた後、メインダイヤルを OFF にしてください。

現　象	原　因	対　処
バッテリーの消耗が早い	フル充電状態で長期間（1年ぐらい）放置したために、バッテリーの容量が低下しています。	●新しいバッテリーと交換してください。
	バッテリーの寿命です。	
バッテリーが充電できない	メインダイヤルが OFF 以外になっています。	●メインダイヤルを OFF にしてください。
	バッテリーの寿命です。	●新しいバッテリーと交換してください。
	カメラとコンパクトパワーアダプターの接触不良です。	●コンパクトパワーアダプターのDCプラグを、DC IN端子にしっかりと差してください。 ●コンパクトパワーアダプターに電源ケーブルを接続し、電源コンセントにしっかりと差し込んでください。
画像がぼやけている ピントがあまい	カメラが動いています。	●シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。 ●シャッター速度が遅く （手ブレ警告）が表示されたときは、三脚をお使いください。
	AF補助光投光部が何かで覆われているため、オートフォーカスが機能していません。	●AF補助光投光部に、指などがかからないように注意してください。
	被写体がピントの合う範囲からはずれています。	●被写体から70cm以上離してください。 ●被写体から6cm（ワイド端）/20cm（テレ端）～70cmの距離で撮影するときは、マクロモードで撮影してください。
撮影した画像の被写体が暗すぎる	撮影時の光量が不足しています。	●内蔵ストロボをオンにしてください。 ●光量の大きな外付けストロボをお使いください。
	被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	●露出補正値をプラス側に設定してください。 ●AEロック（p.74）、またはスポット測光機能（p.77）をお使いください。
	被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	●内蔵ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から70cm～4.5m（ワイド端）/3.6m（テレ端）の距離に置いてください。 ●光量の大きな外付けストロボをお使いください。

現　象	原　因	対　処
撮影した画像の被写体が明るすぎる	ストロボ撮影時、被写体が近すぎます。	●ストロボをお使いになるときは、ストロボ調光補正（p.73）でストロボの発光量を調節してください。
	被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	●露出補正値をマイナス側に設定してください。 ●AEロック（p.74）、またはスポット測光機能（p.77）を使用してください。
	照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	●被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
	ストロボがオンになっています。	●ストロボをオートまたはオフにしてください。
ストロボが発光しない	ストロボがオフになっています。	●ストロボをオートまたはオンにしてください。
テレビに出力できない	ビデオ出力方式が［PAL］方式になっています。	●ビデオ出力方式を［NTSC］にしてください。 ➡「設定メニュー（p.116）」参照
ズームの操作ができない	モードダイヤルを に合わせています。	●モードダイヤルを 以外に合わせてください。
	動画撮影中に、ズームレバーを押しました。	●動画を撮影する前に、ズーム操作をしてください。

エラーコード/メッセージコード一覧

表示パネルに表示されるエラーコード、メッセージコードには以下のものがあります。

エラーコード

Exx	：	カメラに異常が発生しました。いったんメインダイヤルをOFFに戻したあと、再び撮影または再生してください。頻繁にこのエラーコードが表示されるときは故障ですので、「xx」の数値を控えて修理サービス相談窓口へお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

メッセージコード

Pb	：	画像の再生中です。
PC	：	PCモードでコンピューターと接続中です。
	：	バッテリーの容量は十分です。
	：	バッテリーの残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、早めに充電してください。
 Lb	：	バッテリーの残量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに新しいバッテリーに交換、または充電してください。 または、バッテリーカバーが開いています。カバーを閉じてください。
CF	：	CFカードが入っていない、またはCFカードスロットカバーが開いています。あるいはCFカードのエラーです。
LENS	：	レンズキャップをつけたまま電源を入れました。レンズキャップを外し、一度電源を切って、再度入れ直してください。

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

処理中...	：撮影した画像をCFカードに記録しています。 再生モードを起動中です。
CFカードがありません。	：CFカードがカメラに入っていないときに、撮影または再生をしようとしました。
記録できません。	：CFカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。
CFカードが異常です。	：CFカードに異常があります。
CFカードがいっぱいです。	：CFカードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上画像を記録できません。または、これ以上プリント指定を保存できません。
ファイル名が作成できません。	：カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。撮影メニューから[番号リセット機能]を[入]に設定してください。必要な画像をコンピューターに取り込んだ後、CFカードを初期化してください(p.97)。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
画像がありません。	：CFカードに画像が記録されていません。
画像が大きすぎます。	：3200×2400画素より大きなサイズの画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
互換性のないJPEGです。	：互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています。	：データが破壊されている画像を再生しようとしました。
RAW	：異なる形式のRAW画像を再生しようとしました。
拡大できない画像です。	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像を拡大しようとしました。
回転できない画像です。	：別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像を回転しようとしました。

認識できない画像です。	：特殊なフォーマット（他社カメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
プロテクトされています。	：プロテクトされている画像を削除しようとしました。
指定が多すぎます。	：プリント指定またはスライドショーの画像指定が多すぎます。これ以上指定できません。
指定できない画像です。	：JPEG以外のファイルをプリント指定しようとしました。
指定完了できませんでした。	：プリント指定またはスライドショーの画像指定を保存できませんでした。
編集できません。	：スライドショー指定ファイルが壊れています。

別売のカメラダイレクト対応プリンターでプリント中に、カメラの液晶モニターに表示されるメッセージには、以下のものがあります。お使いのプリンターによっては、その他のメッセージも表示されます（巻末 p.11）。

ペーパーがありません。	：ペーパーカセットが正しく入っていないか、ペーパーカセット内にペーパーがありません。または、給紙動作が正しく行われていません。
インクがありません。	：インクカセットが入っていません。またはインクカセットのインクがありません。
インクカセットが異常です。	：インクカセットに異常があります。
ペーパーが詰まりました。	：プリント中にペーパーが詰まりました。
通信エラー	：通信中にエラーが発生しました。
トリミングできない画像です。	：別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像をトリミングしようとしました。
トリミングの再設定が必要です。	：トリミング設定時と異なるスタイルでプリントしようとしました。
プリントできない画像です。	：別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像をプリントしようとしました。
プリントできない画像がXX枚ありました。	：別のカメラ、もしくは異なるフォーマットで撮影した画像、またはいったんコンピューターに取り込んで加工した画像をXX枚DPOF設定でプリントしようとしました。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により、記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot G2

カメラ部有効画素数	：	約 400 万画素
撮像素子	：	1/1.8 型 CCD（総画素数 約 410 万画素）
レンズ	：	7（W）– 21（T）mm (35mm フィルム換算 34 – 102mm) F2.0（W）– 2.5（T）
デジタルズーム	：	最大約 3.6 倍（光学ズームレンズと合わせて最大約 11 倍のデジタルズームが可能）
光学ファインダー	：	一次結像式実像光学ズームファインダー、視野率約 84%
液晶モニター	：	1.8 型低温ポリシリコン TFT 液晶カラーモニター、視野率 100%
オートフォーカス方式	：	TTL オートフォーカス（コンティニュアス / シングル） フォーカスロックおよびマニュアルフォーカス可能
測距点	：	切り換え可能（画面中央部、または 3 点から選択可）
撮影距離	： ：	通常撮影：70cm 〜 ∞ マクロ撮影：6cm（W）/ 20cm（T） 〜70cm マニュアルフォーカス撮影：6cm（W）/ 20cm（T）〜∞
シャッター	：	メカニカルシャッター＋電子シャッター
シャッター速度	：	15 〜 1/1000 秒 1.3秒以上は、シャッター速度優先モードまたはマニュアルモード撮影時 1/1000 秒は F8 時のみ 1.3 秒以上のスローシャッター時はノイズリダクション処理あり
測光方式	：	評価測光/中央部重点平均測光 / スポット測光 (中央固定/AF 枠連動)
露出制御方式	：	プログラム AE / シャッター速度優先 AE / 絞り優先 AE / マニュアル露出　AE ロック可能
露出補正	：	± 2 段（1/3 段ステップ） AEB 撮影可能
感度	：	オート / ISO50 / 100 / 200 / 400 相当 （オート時は ISO50 〜 100 相当で自動設定）
ホワイト バランス	：	TTL オートホワイトバランス / プリセットホワイトバランス（太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯 H/ ストロボ） / マニュアルホワイトバランス
内蔵ストロボ	：	動作モード：赤目緩和オート / オート / 赤目緩和オン / オン / オフ
内蔵ストロボ連動範囲	：	70cm 〜 4.5m（W）/70cm 〜 3.6m（T） （ISO100 相当時）

（W）:ワイド端　（T）:テレ端

外部ストロボ接点	:	アクセサリーシュー部　シンクロ接点 以下のストロボの使用を推奨 キヤノン スピードライト220EX / 380EX / 420EX / 550EX マクロリングライト MR-14EX
ストロボ調光補正	:	±2段（1/3段ステップ）、FEロック可能
撮影モード	:	オート クリエイティブゾーン：プログラム / シャッター速度優先 / 絞り優先 / マニュアル イメージゾーン：パンフォーカス / ポートレート / 風景 / 夜景 / 色効果 / スティッチアシスト / 動画
連続撮影	:	: 約1.5画像 / 秒 : 約2.5画像 / 秒 （ラージ / ファインモード、液晶ファインダー非表示のとき）
セルフタイマー	:	約10秒後に撮影
ワイヤレスコントローラー	:	撮影 / 再生可能（本体に同梱） 撮影時はレリーズボタン操作から約2秒後に撮影
パソコン接続撮影	:	可能（同梱のソフトウェアが必要）
記録媒体	:	コンパクトフラッシュカード（Type IおよびType II）
画像ファイルフォーマット	:	DCF*1　DPOF対応
画像記録フォーマット	:	静止画：JPEG(Exif 2.2)*2 / RAW 動画：AVI（画像データ：Motion JPEG / 音声データ：WAVE（モノラル））
JPEG圧縮率切り換え	:	スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数	:	静止画：ラージ　：2272×1704画素 ミドル1　：1600×1200画素 ミドル2　：1024×　768画素 スモール　：　640×　480画素 動画：　320×240画素（約30秒）* 160×120画素（約120秒）* 約15フレーム / 秒 *（　）内は1回の撮影での最長記録時間です。
再生モード	:	シングル再生 / インデックス再生（サムネイル9画像） 拡大再生（液晶モニター上で約3倍または約6倍に拡大可能） スライドショー 専用プリンター（CP-10）への画像出力（ダイレクトプリント）
インターフェース	:	USB（ユニバーサル・シリアル・バス） 映像/音声出力端子（NTSCまたはPAL切換可能、モノラル音声）
電源	:	1. 充電式リチウムイオン電池（BP-511）（同梱 / 別売） 2. 充電式リチウムイオン電池（BP-512）（別売） 3. ACアダプター（同梱） 4. カーバッテリー（別売のチャージアダプター / カーバッテリーケーブルキット CR-560が必要）

動作温度	：	0～40℃
動作湿度	：	10～90%
大きさ	：	120.9（幅）x 76.6（高さ） x 63.8（奥行き）mm（突起部を除く）
質量	：	約425g（本体のみ）

*1 DCFは（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で主として、DSC等の画像ファイル等を、関連機器間で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

*2 このデジタルカメラは、Exif 2.2（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

バッテリーパック BP-511/バッテリーパック BP-512（別売）

形式	：	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	：	7.4 V
公称容量	：	1100mAh
充放電回数	：	約300回
使用温度	：	0～40℃
大きさ	：	38 x 55 x 21mm
質量	：	約70g

コンパクトパワーアダプター CA-560

定格入力	：	AC100～240 V（50/60 Hz） 60VA（100V）～75VA（240V）
定格出力	：	DC9.5 V / 2.7A
使用温度	：	0～40℃
大きさ	：	57 x 28 x 104mm（本体のみ）
質量	：	約180g

ワイヤレスコントローラー WL-DC100

電源	：	リチウムボタン電池 CR2025
使用温度	：	0～40℃
大きさ	：	35 x 6.5 x 56.6mm
質量	：	約10g

コンパクトフラッシュカード

カードスロットタイプ	Type I
大きさ	36.4 x 42.8 x 3.3mm
質量	約10g

チャージアダプター/カーバッテリーケーブルキット CR-560（別売）

●チャージアダプター CG-560

入力電圧	DC9.5V（CA-560使用時）、DC12/24V（カーバッテリー使用時）
入力電流	DC2.5A（バッテリーパック充電時）
定格出力	DC8.4V　1.6A（バッテリーパック充電時） DC9.5V　1.5A（アダプター時）
使用温度	0～40℃
大きさ	93 × 36 × 71mm
質量	約140g

●カーバッテリーケーブル CB-560

対応車種	シガーライターソケットがあるDC12V、または24Vのカーバッテリーを装備したマイナス接地車
ヒューズ	125V / 4A
長さ	約1.8m
質量	約80g

ワイドコンバーター WC-DC58（別売）

倍率	約0.8倍
焦点距離	∞
レンズ構成	3群3枚
撮影範囲 （レンズ先端より）	10mm ～ ∞（ワイド端、PowerShot G2に装着時）
ねじ径	58mm標準フィルターネジ （PowerShot G2に装着時は、コンバージョンレンズアダプターLA-DC58が必要）
大きさ	直径：80mm　長さ：40mm
質量	約157g

テレコンバーター TC-DC58（別売）

倍率	：	約 1.5 倍
焦点距離	：	∞
レンズ構成	：	2 群 3 枚
撮影範囲 （レンズ先端より）	：	400mm ～ ∞（テレ端、PowerShot G2 に装着時）
ねじ径	：	58mm 標準フィルターネジ (PowerShot G2 に装着時には、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58 が必要)
大きさ	：	直径 : 65mm　長さ : 37mm
質量	：	約 117g

クローズアップレンズ 250D（58mm）（別売）

焦点距離	：	250mm
撮影範囲 （レンズ先端より）	：	120 ～ 200mm（PowerShot G2 に装着時）
ねじ径	：	58mm 標準フィルターネジ (PowerShot G2 に装着時には、コンバージョンレンズアダプター LA-DC58 が必要)
大きさ	：	直径 : 60mm　長さ : 12mm
質量	：	約 80g

ソフトケース SC-PS700（別売）

大きさ	：	141（幅）× 100（高さ）× 80（奥行き）mm（突起部を除く）
質量	：	約 40g

索引

記号 / アルファベット

ア行

カ行

サ行

巻末 - プリント機能（追加）

プリント機能をさらに充実させました。

カメラを接続して、簡単な操作で、きれいに、しかも早くプリントできるプリンターが増えました。詳細は、この後をお読みください。

カメラダイレクト対応 BJ プリンタ(別売)でプリント

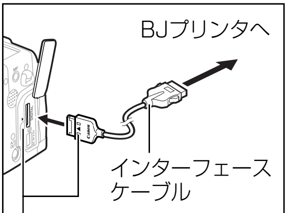
カメラダイレクト対応BJプリンタ(別売)とカメラを接続して、撮影した画像を簡単にダイレクトプリントできます。またDPOFのプリント設定でも、プリントできます。

お手持ちのBJプリンタがダイレクトプリントに対応しているかどうか、また接続ケーブルやBJプリンタ全般に関することは、BJプリンタに同梱されている使用説明書もあわせてご覧ください。

BJプリンタを接続する

BJプリンタと接続する際には、あらかじめカメラの電源を切っておいてください。

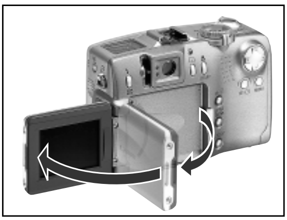
- カメラをプリンタに接続する場合、カメラの電源には、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。プリント中にバッテリーがなくなると途中でプリントが中止されることもありますので、早めに別のバッテリーを用意することをおすすめします。



カメラとケーブルの▶マークが合うように差し込みます。

1 ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- ケーブルを差し込むときは、「Canon」がカメラの前面になるように差し込んでください。



2 液晶モニターを開く

プリンター接続時



3 プリンター接続後、メインダイヤルを▶にする

- プリンターが正しく接続されると、[プリンター接続アイコン] が表示されます。

- カメラのDIGITAL端子からケーブルを取り外すときは、必ずコネクターの「PUSH」ボタンを押しながら引いてください。

- ペーパーやインクカセットの取り付け方は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- プリンタ接続後に、[カメラアイコン]から▶に切り換えた場合、レンズは収納されません。レンズを破損しないよう気をつけてください。レンズを収納する場合は、カメラからダイレクトインターフェースケーブルを取り外し、手順1 からやり直してください。
- プリンタの接続時、次の操作はできません。

  ·動画再生

  ·SETボタン＋JUMPボタンを使った言語の設定
- プリンタとの接続を解除すると、液晶モニター左上の[プリンター接続アイコン]が消え、通常の再生モードになります。

プリントする

シングル再生またはインデックス再生中の画像をプリントします。

1 十字ボタンの◀▶でプリントする画像を選び、SETボタンを押す

2 必要に応じてプリント枚数、プリントスタイル、トリミングの指定をする

- プリント枚数を指定する➔巻末 p. 5
- プリントスタイルを指定する➔巻末 p. 5
- 画像の一部分をプリント(トリミング)指定する➔巻末 p. 7



3 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で[プリント]を選び、SETボタンを押す

- JUMPボタンでも[プリント]を選べます。
- プリントが開始され、正常に終了すると、再生画面に戻ります。

- 記録形式がRAWの画像や、動画はプリントできません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSETボタンを押します。確認の画面が表示されるので、十字ボタンの◀▶で[OK]を選び、SETボタンを押します。
  プリントが中断され、プリント中のペーパーは排紙されます。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます(巻末 p. 11)。エラー内容を解決すると、自動的にプリントを開始します。それでもエラー画面が消えないときは、SETボタンを押してプリントを中止します。
- エラーの内容によっては、[続行]と[中止]が表示されることもあります。
- ＢＪプリンタの操作パネルに、エラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。

プリント枚数を指定する



1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[枚]を選ぶ

2 十字ボタンの◀▶で枚数を指定する

- 1〜99枚まで指定できます。

プリントスタイルを指定する

次のスタイルを指定できます。

ペーパー		ペーパーサイズを、L判、2L判、はがきサイズ、A4サイズ、カードサイズから選べます。使用できるペーパーについては、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。
フチ	フチなし	ペーパーいっぱいにプリントします。
	フチあり	フチを付けてプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。



1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼で[スタイル]を選び、SETボタンを押す



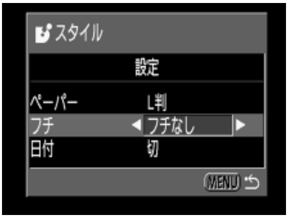
2 十字ボタンの▲▼で[ペーパー]、[フチ]、[日付]のいずれかを選ぶ

3 十字ボタンの◀▶で設定を選びSETボタンを押す



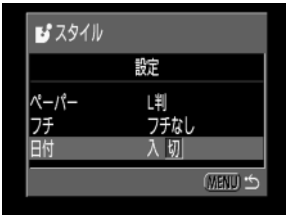
ペーパー

- [L判]または[2L判]、[はがきサイズ]、[A4サイズ]、[カードサイズ]を選びます。



フチ

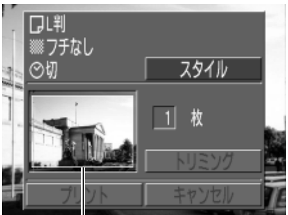
- [フチなし]または[フチあり]を選びます。



日付

- [入]または[切]を選びます。

4 MENUボタンを押し、設定を終了する



プリント範囲枠

- [フチなし]を選ぶと、撮影した画像の中央部が大きくプリントされます。このため、画像の上下左右がカットされます。トリミング設定をしていないときは、プリント範囲枠が表示されるので、カットされる部分が確認できます。

- DPOFのプリント指定でプリントする場合、日付は設定できません。日付はDPOFの設定でプリントされます。➔p. 100
- [フチあり]を選ぶと、撮影した(液晶モニターに表示される)画像とほとんど同じ領域がプリントされます。

画像の一部分をプリント（トリミング）指定する

プリントする範囲を指定できます。

トリミングする前に
プリントスタイル（ペーパー、フチ、日付など）を指定してください。➔巻末 p.5



1 再生画面でSETボタンを押し、十字ボタンの▲▼ で［トリミング］を選び、SET ボタンを押す

- トリミング枠が画面中央に表示されます。すでにトリミングが設定されている画像の場合は、設定されたトリミング枠が表示されます。



2 トリミングする

トリミング枠の大きさを変更する

- ズームレバーを🔍+側または🔍−側に押します。
- トリミング枠は、最小で表示画面のほぼ半分、最大で表示画面とほぼ同じ大きさまで変更できます。
- トリミング枠が最大のとき、さらにズームレバーを🔍−側に押すと、トリミングは解除されます。

トリミング枠の位置を指定する

- 十字ボタンの▲▼ または◀ ▶ でトリミング枠を移動します。

トリミング枠を回転する

- DISPLAY ボタンを押すと、トリミング枠を回転し、縦横を変更できます。



トリミング枠

3 MENUボタンを押し、設定を終了する

- トリミングは、1画像にのみ設定できます。
- トリミング設定は、以下の操作を行うと解除されます。
  - ・他の画像にトリミング設定をする
  - ・プリントモードを終了する（カメラの電源を切る、メインダイヤルを変更する、ケーブルを取り外す）
  - ・トリミング枠を最大よりも大きくする

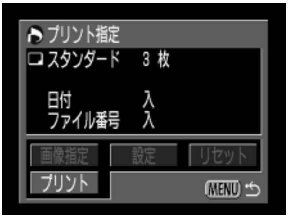
- トリミング枠の形状は、ペーパー、フチの設定で決まります。
- トリミングはカメラの液晶モニターで確認しながら行ってください。テレビを使用すると、トリミング枠を正しく表示できないことがあります。

DPOFのプリント設定でプリントする

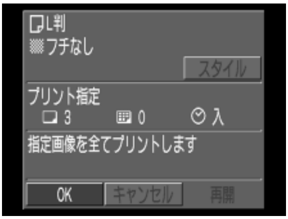
ＤＰＯＦのプリント指定内容を、別売のカメラダイレクト対応のＢＪプリンタでプリントできます。

1 [▶（再生）]メニューから[プリント指定]を選んでSETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた ➔p.39
- プリント指定メニューが表示されます。

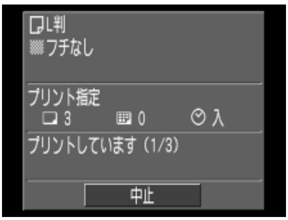


2 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で[プリント]を選び、SETボタンを押す



3 必要に応じてプリントスタイルを指定する

- プリントスタイルを指定する➔p.106



4 十字ボタンの▲▼ または◀▶ で[OK]を選び、SETボタンを押す

- プリントが開始され、正常に終了すると、再生画面に戻ります。

- 日付をプリントする場合は、手順2 の［設定］で［日付］を［入］にします。手順3 のスタイルでは、［日付］の設定はできません（➔p. 106）。なお、プリントタイプが［インデックス］の場合、手順2 で［日付］を［入］に設定しても、日付はプリントされません。
- ファイル番号はプリントされません。

プリントを中止するとき

- プリント中にSET ボタンを押します。確認の画面が表示されるので、十字ボタンの◀▶で［OK］を選び、SETボタンを押します。
  プリントが中断され、プリント中のペーパーは排紙されます。

プリントを再開するとき

- プリント指定メニューで、十字ボタンの◀▶で［再開］を選び、SETボタンを押します。残りの画像をプリントできます。
- 次のような場合は、プリントの再開はできません。
  · 再開する前に、プリント指定を変更した場合
  · 再開する前に、プリント指定した画像を削除した場合
  · プリントを中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
  このような場合は、プリント画面で［OK］を選択すると、1 枚目から再プリントできます。
  バッテリーの容量がなくなって中断した場合は、家庭用電源をお使いになることをおすすめします。バッテリーをお使いになるときは、フル充電されたバッテリーをお使いください。その上で、再度、カメラの電源を入れてください。

エラーが発生したとき

- プリント中、何らかのエラーが発生したときは、エラー画面が表示されます（➔ 巻末p. 12）。エラー内容を解消すると、自動的にプリントを開始します。それでもエラー画面が消えないときは、SETボタンを押してプリントを中止します。
- エラーの内容によっては、［続行］と［中止］が表示されることがあります。
- ＢＪプリンタの操作パネルにもエラー番号が表示されます。エラー番号に対応した対処方法については、BJプリンタの使用説明書をご覧ください。

メッセージ一覧（p.133のつづき）

カメラダイレクト対応プリンターでプリント中に表示されるメッセージ

別売のカメラダイレクト対応プリンターでプリント中に、カメラの液晶モニターに表示されるメッセージについて、p.133に記載してありますが、その他に、以下のメッセージが表示されることがあります。

指定外のペーパーです	：プリントできないサイズのペーパーがプリンターに取り付けられています。
指定外のインクです	：プリントできないインクカセットがプリンターに取り付けられています。
ペーパーが変更されています	：プリントスタイルメニュー表示時からプリントを開始するまでの間にペーパーのサイズが変わりました。
ペーパーとインクが不一致です	：ペーパーとインクの組み合わせが正しくありません。
プリンターバッテリー切れです	：プリンターの電池がありません。

カメラダイレクト対応BJプリンタ接続中に表示されるメッセージ

カメラダイレクト対応BJプリンタに接続しているときは、以下のメッセージが表示されることがあります。

BJプリンタに表示されるエラー番号を確認し、BJプリンタの使用説明書も合わせてご覧ください。

プリンターは使用中です。	：コンピューター、またはプリンターに差し込まれたメモリーカードからプリントしています。 プリントが終了すると自動的に、カメラ内の画像のプリントを開始します。
プリンターは準備中です。	：プリンターを準備しています。準備が終了すると、自動的にプリントを開始します。
プリントヘッド未装着	：プリントヘッドが取り付けられていません。
プリンターカバーが開いています。	：プリンターカバーを閉じてください。
ペーパーの種類が違います。	：プリンターで使用できないペーパーを選んでいます。プリントスタイルで使用できるペーパーを入れてください。
紙間レバー位置が不正です。	：紙間選択レバー位置を正しい位置にしてください。
インクが残りわずかです。	：そろそろインクタンクの交換時期です。新しいインクタンクをご用意ください。エラー画面で［続行］を選ぶと、プリントを再開します。
廃インクタンクが満杯です。	：BJプリンタのリセットボタンを押すとプリントを再開しますが、お早めにお買い上げの販売店または修理受付窓口（BJプリンタに付属の一覧を参照）に廃インクタンクの交換を依頼してください。
プリンタートラブル発生	：プリンターの電源を入れ直してください。それでもエラーが表示されるときは、BJプリンタの使用説明書に記載されている最寄りのサービスセンターにご相談ください。

補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後７年間です。（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

アクセサリーについて

このデジタルカメラは、キヤノン純正のデジタルカメラ用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。他社製のアクセサリーを組み合わせてお使いになられたことが原因で生じた事故や故障については、弊社では保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。